

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

構造関係共通事項

- 1 適用範囲
- (a) 構造関係共通図（配筋標準図）は、鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
- (b) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
- (c) 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外については、図面及び監督職員の指示による。
- 2 優先順位
- (a) 設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
- 1 建築工事特記仕様書（構造関係）
 - 2 図面 2-1 下記 2-2 以外の図面 2-2 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）
 - 3 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成22年版）」（以下「標準」という。）
- 3 用語の定義
- (a) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
- (b) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

構造関係共通図（配筋標準図）

1 一般事項

- (a) 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。なお、異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
- (b) 有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
- (c) コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
- (d) 鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。

2 加工

- (a) 鉄筋の切断は、シャーカッター等によって行う。
- (b) 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
- (1) 柱の四隅にある主筋（図2.10●）で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合
 - (2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（図2.1の●）にある場合（基礎梁を除く）
 - (3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
 - (4) 杭基礎のベース筋
 - (5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

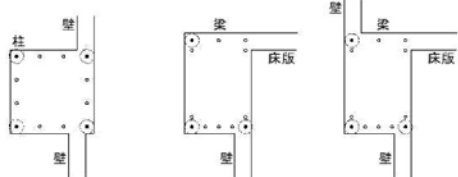


図2.1 異形鉄筋の末端部にフックを付ける場合

- (c) 鉄筋の折曲げ形状及び寸法は、表1による。

表1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B、 D16以下	SD345 D19 ~D38	SD390 D19 ~D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135°及び90° (幅止め筋)				

- (注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

3 組立

鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、吊金物等を使用して行う。

なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として、鋼製とする。また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。

4 継手及び定着

- (a) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手又は溶接継手とし、適用は特記による。
- (b) 鉄筋の継手位置は、特記による。
- (c) 鉄筋の重ね継手は、次による。
- なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (1) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。耐力壁の鉄筋の重ね継手の場合、特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と表2の重ね継手長さのうち大きい値とする。
 - (2) (1)以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表2による。

表2 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_{1h} (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24、27	35d	25d
	30、33、36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24、27	40d	30d
	30、33、36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24、27	45d	35d
	30、33、36	40d	30d

- (注) 1. L_{1h} 、 L_{1h} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1h} は、図1に示すようにフック部分を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



図1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- (d) 隣り合う継手の位置は、表3による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、特記による。

表3 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	隣り合う継手の位置	
		L_{1h}	L_{1h}
フックなしの場合	—	$a = 0.5L_{1h}$	$a \geq 0.5L_{1h}$
		L_{1h}	L_{1h}
圧接継手	—	$a = 0.5L_{1h}$	$a \geq 0.5L_{1h}$
		L_{1h}	L_{1h}
機械式継手	—	$a \geq 400mm$	$a \geq 400mm$
		$a \geq 400mm$ 、かつ、 $a \geq (b+40)mm$	$a \geq 400mm$ 、かつ、 $a \geq (b+40)mm$

- (e) 鉄筋の定着は、次による。
- (1) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、表4により、適用は特記による。
 - (2) (1)以外の鉄筋の定着長さは、表4により、適用は特記による。

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、[S-06.2]による。

梁、耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	表4 鉄筋の定着の長さ				フックあり			
		L_{1h}	L_{2h}	L_{3h}	スラブ	L_{1h}	L_{2h}	L_{3h}	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	—	—	35d	30d	—	—
	21	40d	35d	—	—	30d	25d	—	—
	24、27	35d	30d	—	—	25d	20d	—	—
	30、33、36	35d	30d	—	—	25d	20d	—	—
SD345	18	50d	40d	—	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	—	—
	21	45d	35d	—	—	30d	25d	10d	—
	24、27	40d	35d	—	—	30d	25d	—	—
	30、33、36	35d	30d	—	—	30d	20d	—	—
SD390	21	50d	40d	—	—	35d	30d	—	—
	24、27	45d	40d	—	—	35d	30d	—	—
	30、33、36	40d	35d	—	—	30d	25d	—	—

- (注) 1. L_{1h} 、 L_{1h} ：2. 以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ
2. L_{2h} 、 L_{2h} ：割製破壊のおそれのない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ
3. L_{3h} ：小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3h} ：小梁の下端筋のフックあり直線定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、図2に示すようにフック部分を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートを使用する場合は、表4の値に5dを加えたものとする。

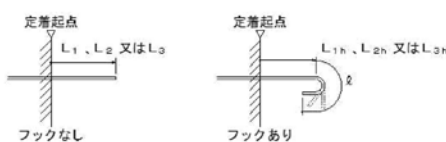


図2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- (3) 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表4のフックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、図3により、次の(Ⅰ)、(Ⅱ)及び(Ⅲ)を全て満足するものとする。
- (Ⅰ) 全長は、(e)(1)又は(e)(2)の直線定着長さ以上とする。
- (Ⅱ) 余長は80以上とする。
- (Ⅲ) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは、表5に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

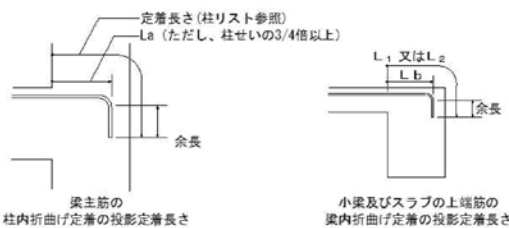


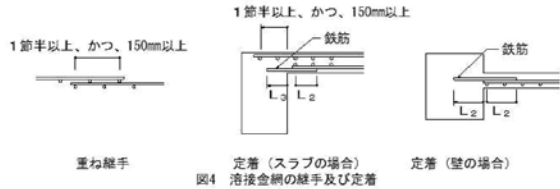
図3 折曲げ定着の方法

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24、27	15d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24、27	20d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24、27	20d	20d
	30、33、36	20d	15d

- (注) 1. L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む）
2. L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (f) その他の鉄筋の継手及び定着は、次による。

- (1) 溶接金網の継手及び定着は、図4による。
- なお、 L_2 及び L_3 は表4の(注)による。



- (2) スパイラル筋の継手及び定着は、図5による。

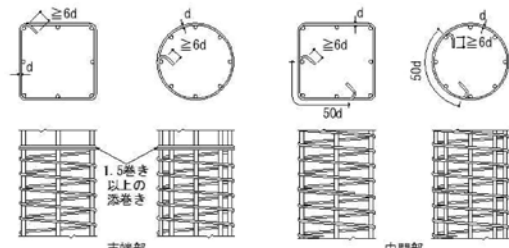


図5 スパイラル筋の継手及び定着

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表6による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

※下表は沖縄県土木建築部「構造計画・施工計画の留意事項」（平成25年4月）に準ずる。

部 位	水セメント比 50%以下	水セメント比 55%以下	水セメント比 55%以下	水セメント比 55%以下
	最少かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)	最少かぶり厚さ(mm)	設計かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	20	30	30	40
	30(1)	40	40(1)	50
土に接する部分	30	40	40	50
	40(1)	50	50(1)	60
壁、柱、床、はり又は基礎の立ち上がり部分	40*	50*	50*	70*
	60*	70*	70*	80*

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は構造図による。
2. (1)モルタル塗り等の仕上げのあるもので鉄筋の耐久性上有効な仕上げが施している場合にあっては、最少かぶり厚さを10mm減することができる。
3. スラブ、梁、基礎及び構壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、構造図による。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- (d) 鉄筋相互のあきは図6により、次の値のうち最大のものを以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合はあきは、構造図による。
- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - (2) 25mm
 - (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

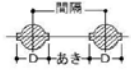


図6 鉄筋相互のあき

- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。
- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは(c)による。

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造（プレハブ）事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮 尺	—
適 要		図面番号	S-02
検 印	管理建築士	設 計	製 図
設 計 者	名 称	株式会社 宮平設計	
	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉	
所 在 地	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 大臣登録 第350160号	
		沖縄県那覇市 首里山川町三丁目6番1号	

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号
一級建築士 第141385号
構造設計一級建築士 第9036号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

各部配筋 参考図

各部配筋参考図は、寸法の統一による設計の質の確保及び効率の向上並びに積算及び施工における業務の簡素化を図るものとして、各部配筋を特記する際に必要な事項を参考図として示すものである。
なお、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）５章において特記することとしている各部配筋は、構造計算等に基づき適切に特記する必要がある。

１節 基礎及び基礎梁の配筋

- １．１ 直接基礎の配筋 ※S-06(2)参照
１．２ 基礎接合部の配筋 ※S-06(2)参照
１．３ 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

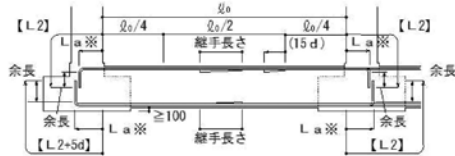
(a) 一般事項

- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。
(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、3.1(a) (2)による。



図1.4 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

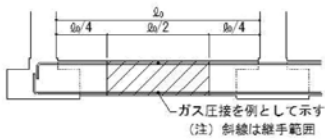


図1.5 主筋の継手、定着及び余長（その1）

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

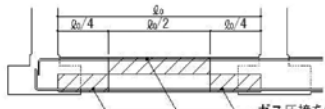
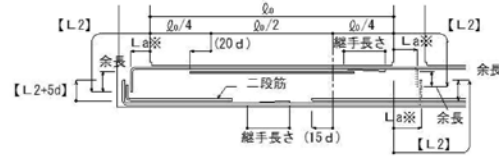


図1.6 主筋の継手、定着及び余長（その2）

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、3.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

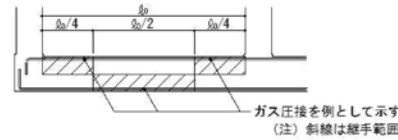


図1.7 主筋の継手、定着及び余長（その3）

１．４ 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、3.2(a)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図1.8によることができる。

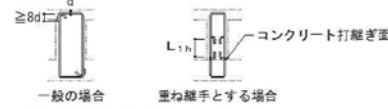


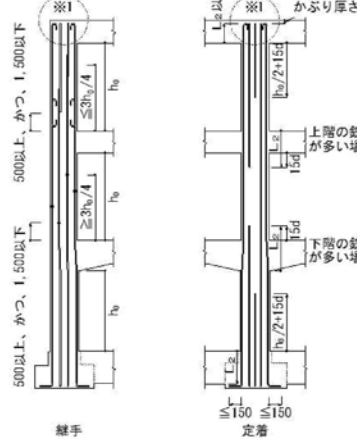
図1.8 あばら筋組立の形及びフックの位置

２節 柱の配筋

２．１ 柱主筋の継手、定着及び余長

(a) 一般事項

- (1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_b/4$ (h_b は柱の内法高さ)以下とする。
(2) 継手、定着及び余長は図2.1による。ただし、柱頭定着長さL2を確保できない場合は、構造図による。



- (注) 1. 柱の隅隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、<表3>による。
3. 継手及び定着は、すべての隅に適用できる。

図2.1 柱主筋の継手、定着及び余長

※1. 柱頭部主筋の納まりは、[S-06.3.1]および柱リストによる。

２．２ 帯筋組立の形及び割付け

- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。
(b) 帯筋組立の形は図2.2により、適用は構造図による。

- (1) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(2) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
(3) S P形において、柱頭及び注脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。
(c) フック及び継手の位置は交互とする。

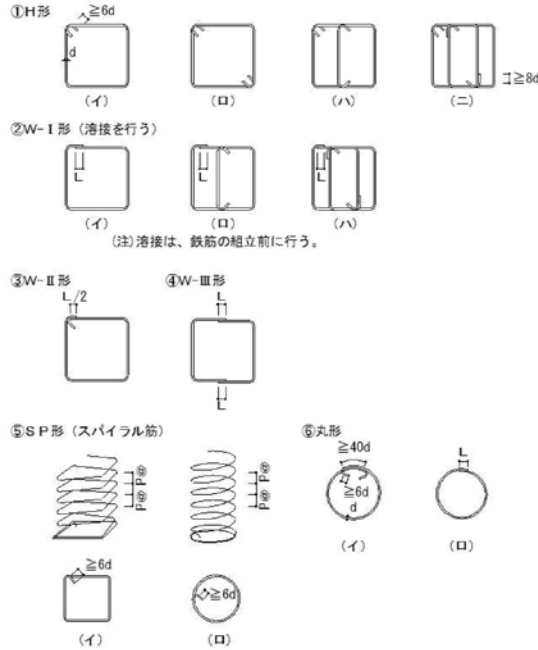
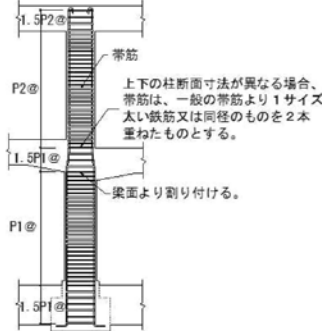


図2.2 帯筋組立の形

(d) 帯筋の割付けは、図2.3とし、それ以外の場合は構造図による。



- (注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2. 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。
なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図2.3 帯筋の割付け

２．３ 柱の打増し部 ※S-06(4)参照

３節 梁の配筋

３．１ 大梁（5.1基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

【※】梁主筋の柱内定着長は、[S-06.2]による。

(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- (1) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は、柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図3.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。

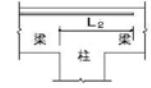


図3.1 梁主筋の梁内定着

(2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。

- なお、定着の方法は、S-02.4 (a) (3)による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

(3) 段違い梁は、図3.2による。

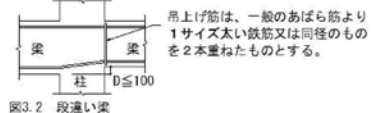
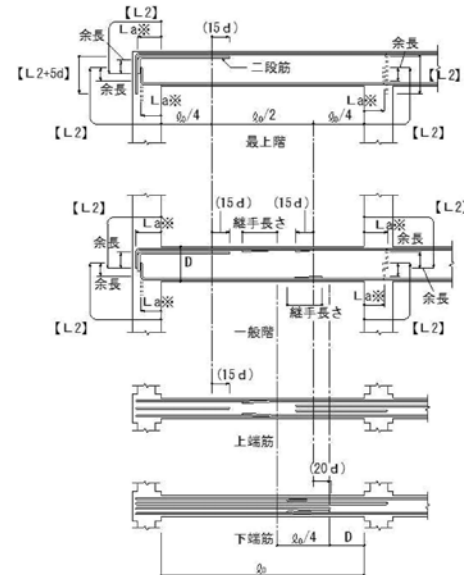


図3.2 段違い梁

(4) 継手中心位置は、次による。

- 上端筋：中央 $h_b/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、 $h_b/4$ を加えた範囲以内

(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

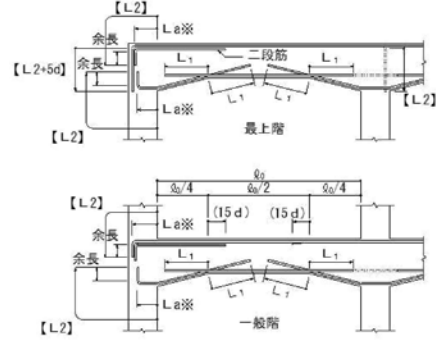
図3.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造（プレハブ）事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮 尺	—
適 要		図面番号	S-03
検 印	管理建築士	設 計	製 図
設 計 者	名 称	株式会社 宮平設計	
	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉	
	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号	
	所 在 地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目6 1番9号	

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下縁筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_a の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

図3.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

3.2 あばら筋（1.4基礎梁のあばら筋以外に限る）の組立の形及び割付け等

(a) あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、図3.5(イ)とする。ただし、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
(2) フックの位置
(イ) (イ)の場合は、交互とする。
(ロ) (ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
(ハ) (ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

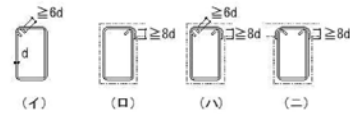
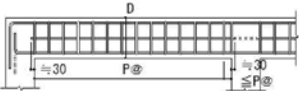


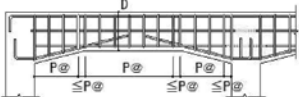
図3.5 あばら筋組立の形

(b) あばら筋の割付け
(1) 間隔が一様でハンチのない場合

- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP⑤は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.6 あばら筋の割付け（その1）

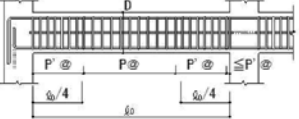
(2) 間隔が一様でハンチがある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中のP⑤は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.7 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中P⑤、P'⑤は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.8 あばら筋の割付け（その3）

(c) 腹筋及び幅止め筋

- (1) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1,000程度とする。

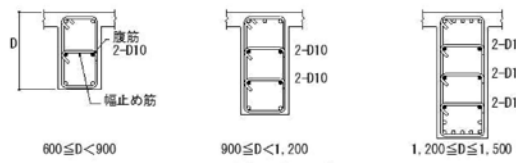
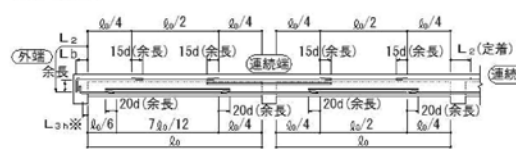


図3.9 腹筋及び幅止め筋

3.3 梁の打増し補強 ※S-06(4)参照

3.4 小梁主筋の継手、定着及び余長

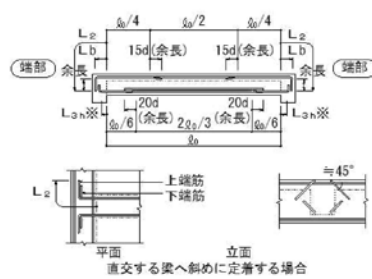
(a) 連続小梁の場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.3及び3.1に準ずる。
※ L_{an} を確保できない場合は、<S-02.4 (a) (3)>によることができる。

図3.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(b) 単独小梁の場合

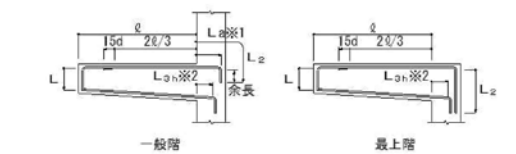


- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、1.3及び3.1に準ずる。
※ L_{an} を確保できない場合は、<S-02.4 (a) (3)>によることができる。

図3.12 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

3.5 片持梁主筋の継手、定着及び余長

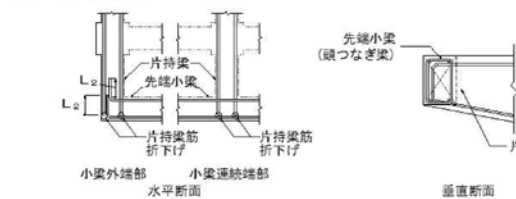
(a) 先端に小梁のない場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
3. 図示のない事項は、3.1による。
※1. L_a の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
※2. L_{an} を確保できない場合は、<S-02.4 (a) (3)>によることができる。

図3.13 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



- (注) 1. 図示のない事項は、(a)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図3.14 片持梁主筋の定着

4節 壁及びその他の配筋

4.1 壁の配筋

(a) 壁の基準配筋は構造図による。

4.2 壁の継手及び定着

(a) 一般事項

- (1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さを L_1 、定着長さを L_2 とする。
(2) 幅止め筋は、縦横ともD10～1,000程度とする。
(3) 打増し部分に、壁及びスラブ筋等が取り付けられる場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。
(注) 図中のP⑤は、特記された壁筋の間隔を示す。

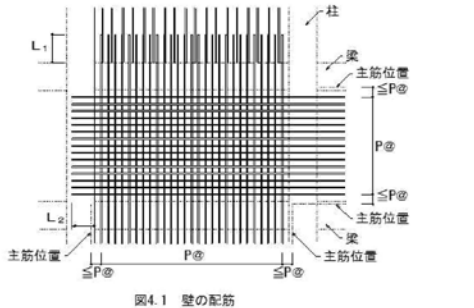


図4.1 壁の配筋

4.3 壁の交差部及び端部の配筋

(a) 壁の交差部及び端部の配筋

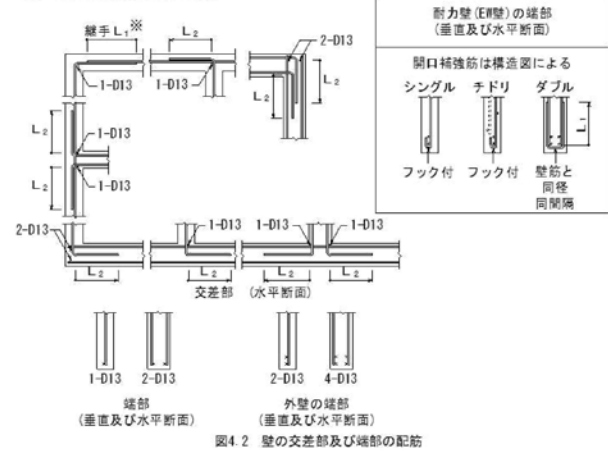


図4.2 壁の交差部及び端部の配筋

4.4 壁の開口部補強

- (a) 壁の開口部の補強筋は、構造図による。
(b) 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。
(c) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

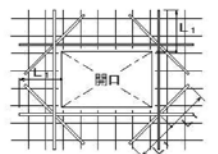


図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ

4.5 壁の打増し補強

壁の打増し補強は、構造図による。

4.6 パラベット

(a) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

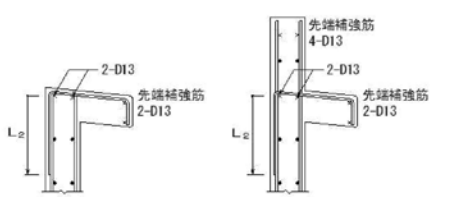


図4.5 パラベットの配筋

5節 スラブの配筋

5.1 スラブの配筋

(a) 一般事項

- (1) 土間スラブ下の砂利地床厚さ及び捨てコンクリート地床厚さは、構造図による。
(2) 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。
(b) スラブの基準配筋は図5.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。



- (注) 1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは、 L_1 とする。

図5.1 スラブの配筋

5.2 スラブ筋の定着及び受け筋

(a) 定着長さ及び受け筋は、図5.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図5.3により梁内に定着する。

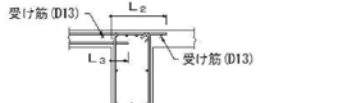


図5.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）

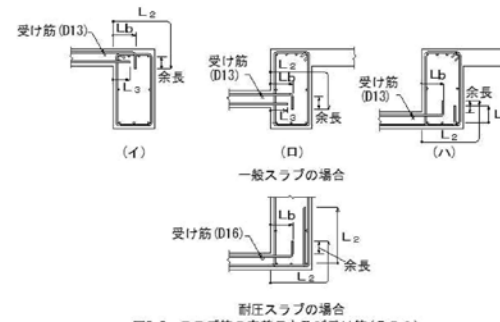


図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）

5.3 片持スラブの基準配筋

(a) 片持スラブの基準配筋（CS形）は、図5.4及び図5.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

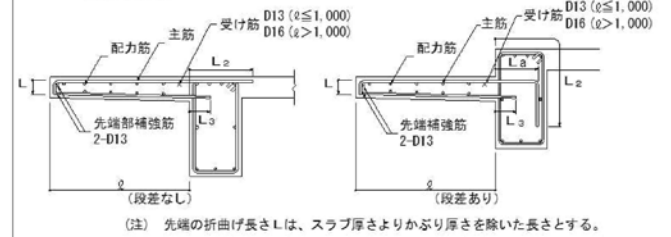


図5.4 片持スラブの配筋（d>600の場合）

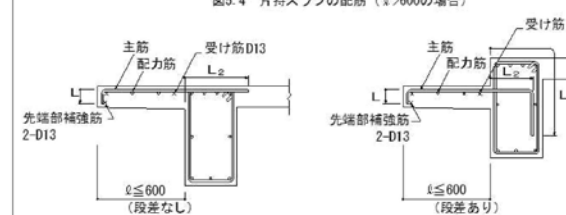


図5.5 片持スラブの配筋（d≤600の場合）

(注) 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図5.5 片持スラブの配筋（d≤600の場合）

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造（プレハブ）事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	—
適要		図面番号	S-04
検印	管理建築士	設計	製図
	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉	株式会社 宮平設計
	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号	一級建築士 大臣登録 第350160号
	所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目6番9号	

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号
一級建築士 第141385号
構造設計一級建築士 第9036号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）

5.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋 ※S-07(10)参照

5.5 スラブの開口部の補強

- (a) スラブ開口部の補強は構造図による。
- (1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図5.7により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13($\phi=2L1$)シングルを上下筋の内側に配筋する。
- (2) スラブの開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

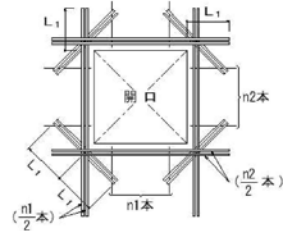


図5.7 スラブ開口部の補強配筋

5.6 出隅部及び入隅部の補強

- (a) 厚根スラブの出隅及び入隅部
厚根スラブの出隅及び入隅部分には、図5.8により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

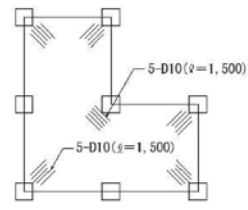
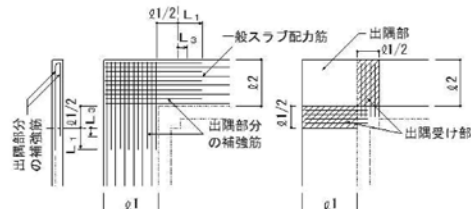


図5.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持スラブの出隅部

- (1) 補強の配筋は構造図により、配筋方法は、図5.9による。
- (2) 出隅受け部分（図5.9の斜線部分）の補強筋は構造図による。



- (注) $\phi1 \geq \phi2$ とする。
- (注) 1. $\phi1 \geq \phi2$ とする。
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に $L1$ 定着する。

図5.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

5.7 スラブの打継ぎ補強等 ※S-07(5)参照

5.8 段差のあるスラブの補強 ※S-07(8)参照

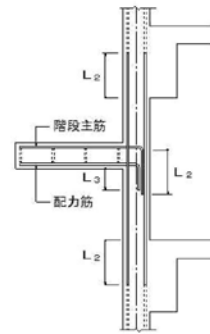
6節 階段の配筋

6.1 片持スラブ形階段の配筋

- (a) 片持スラブ形階段の基準配筋は、表6.1及び図6.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表6.1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋図	
配筋図	



- (注) 1. 片持スラブ形階段を受ける壁配筋は、構造図による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、<S-02、表4の Ld >とする。

図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

6.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

- (a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は、図6.2及び図6.3により、寸法及び配筋種別は構造図による。

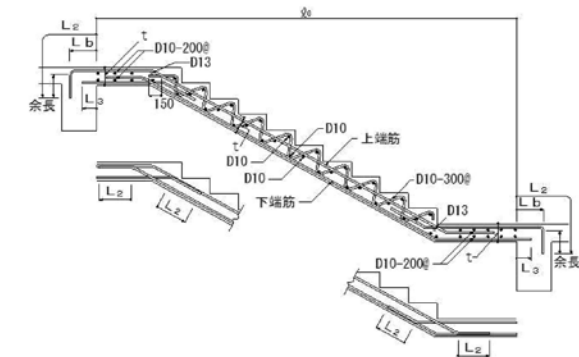
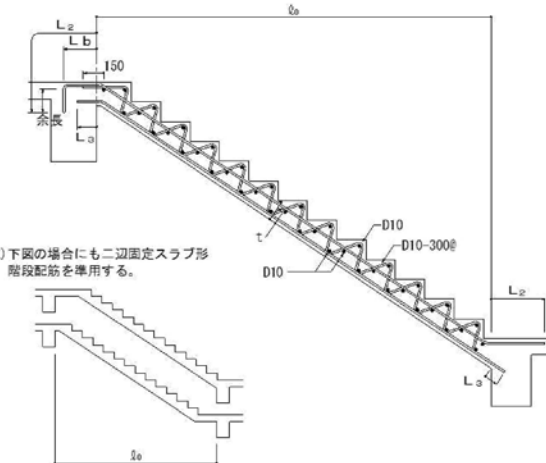


図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



- (注)下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

7節 梁貫通孔及びその他の配筋

7.1 梁貫通孔の配筋

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
- (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 補強筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。
- (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの（軽微な開口）で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であればら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

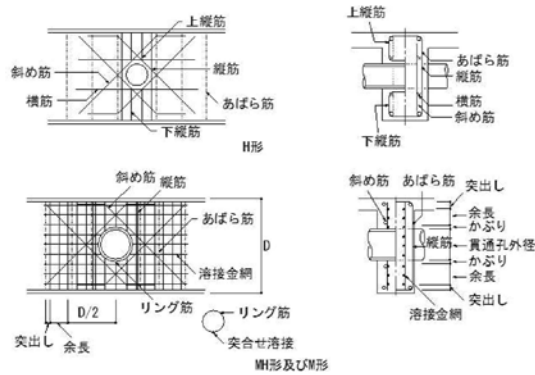


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

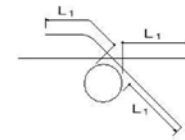


図7.2 補強筋の定着長さ

7.2 梁貫通孔の補強形式

梁貫通孔の補強は、特記なき既製品によるものとし、表7.1による場合は、監理者と協議して配筋種別を決定すること。

- (a) 梁貫通孔の補強形式は表7.1により、配筋種別は構造図による。

表7.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	なし	なし	なし	
H4	4-2-D16	なし	なし	なし	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

- (注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

7.3 コンクリートブロック横壁との取合い

(a) 控壁の配筋

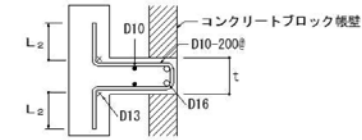


図7.3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(b) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

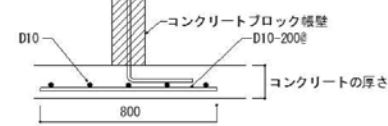


図7.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

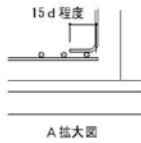
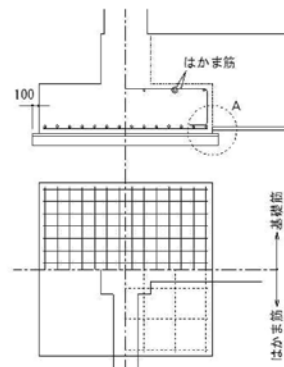
工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（４）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	—
適要		図面番号	S-05
検印	管理建築士	設計	製図
設計者	名称	株式会社	宮平設計
	資格者氏名	一級建築士	徳村 泉
	登録番号	一級建築士事務所知事登録	第144-33号
	所在地	一級建築士	大臣登録 第350160号

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号
一級建築士 第141385号
構造設計一級建築士 第9036号

雑配筋標準図（１）

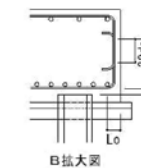
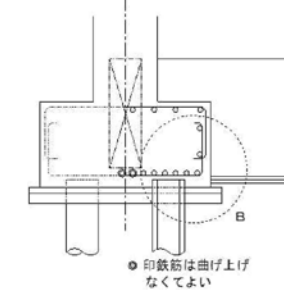
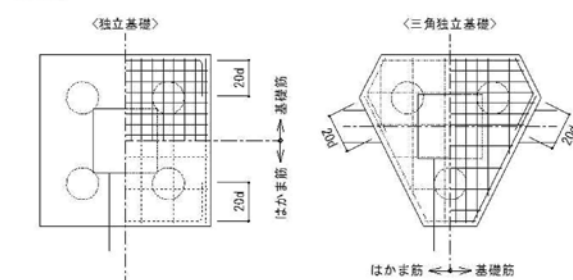
1.1.基礎配筋

(a) 独立基礎 ① 直接基礎



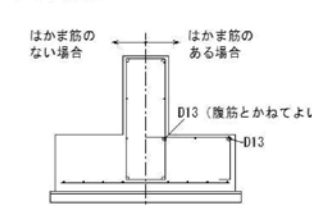
はかま筋のない場合

② 杭基礎

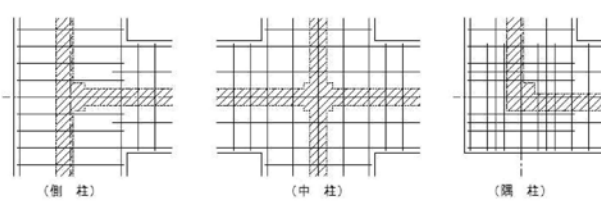


d: 基礎筋の径
d0: 基礎筋・はかま筋の細い方の径
Lo ≥ 100かつ4d+70以上

(b) 連続基礎

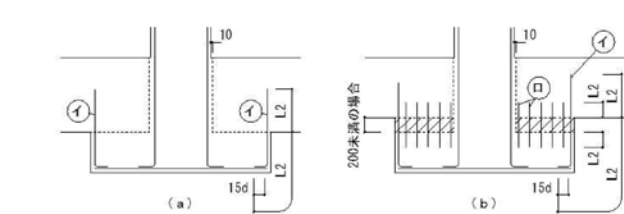


・交差部のベース筋

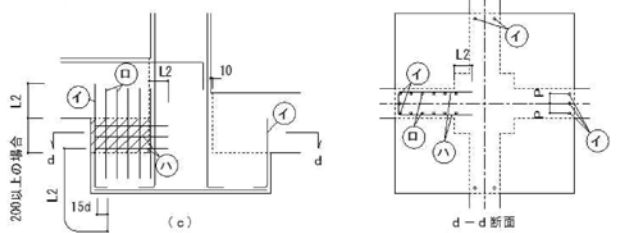


1.2.基礎と基礎梁の接合

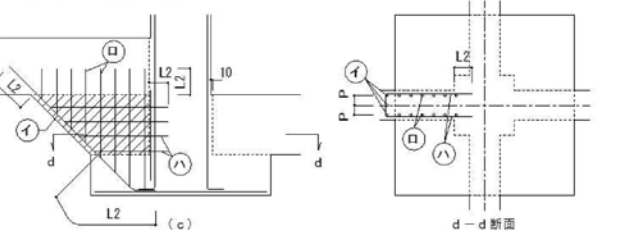
(a) 打増高<h200mm



(b) 打増高≥h200mm



(b) 打増高≥h200mm (梁ハンチ)



部は基礎梁幅と同厚コンクリートの打ち増し部分

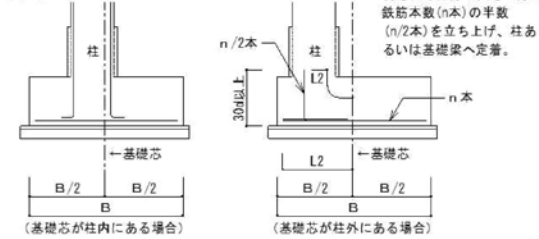
補強筋：基礎と基礎梁を一体とするために補強する。その詳細は設計図面に特記する。
(a) では ① 鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて2-4-D16とする。
(b) では ② 鉄筋は一般に基礎梁の幅に応じて2-4-D16とする。
(c) ③ 鉄筋は基礎梁のあばら筋と同径・同間隔に配筋する。
(c) ④ ⑤ ⑥ の各鉄筋量は設計図面に特記する。特記なき下表による。

梁幅	b ≤ 300	300 < b ≤ 400	b > 400
① 配筋	2-D16	3-D16	D16, P ≤ 150mm
② 配筋	基礎梁のあばら筋と同径・同間隔とする。		
③ 配筋	D13@200		

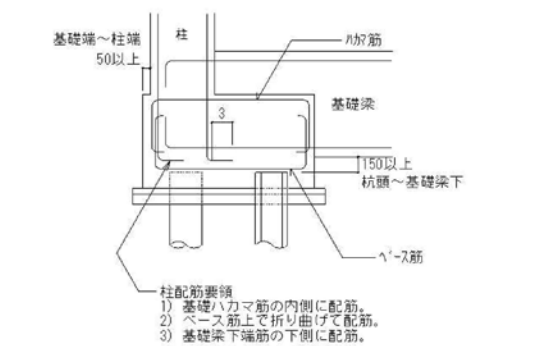
1.3.偏心基礎

(a) 直接基礎

・一般に準ずる

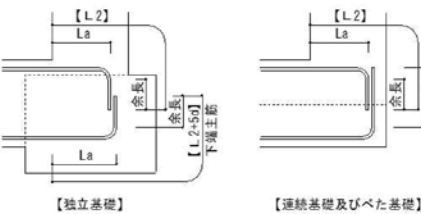
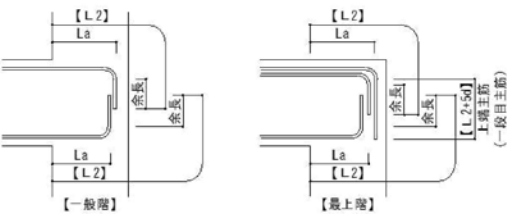


(b) 杭基礎



2.1.梁主筋の柱内折曲げ定着長さ

1) 特記なき梁主筋の柱内折曲げ定着長さは、【L2】以上とする。
2) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLaは、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



2.2.接合部(一般階)の柱配筋

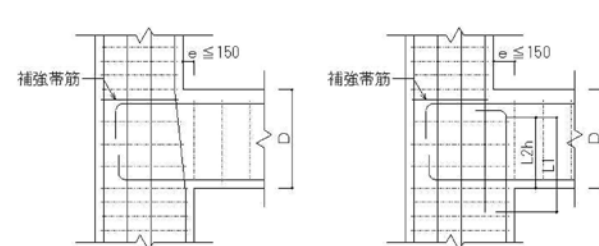


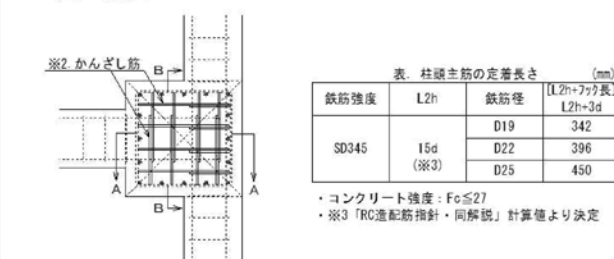
図. e/D ≤ 1/6

図. e/D > 1/6

【注】eの最大値は、原則として、150mmとする。

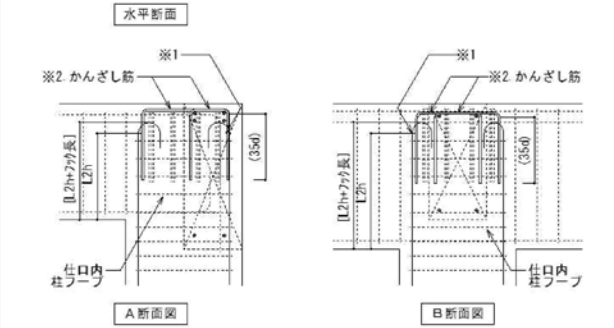
3.1.柱頭(最上階)の配筋

(a) 柱頭部主筋を直接定着とした場合の納まり (1) 一般納まり



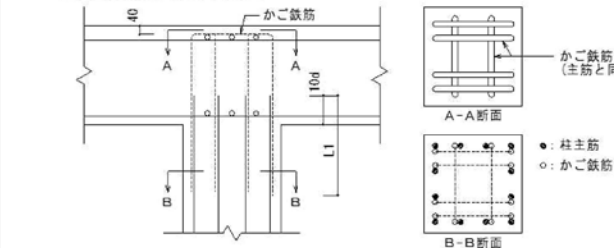
鉄筋強度	L2h	鉄筋径	【L2h+7d/2長】 L2h+3d
SD345	15d (※3)	D19	342
		D22	396
		D25	450

・コンクリート強度：Fc ≤ 27
・※3 「RC雑配筋指針・同解説」計算値より決定

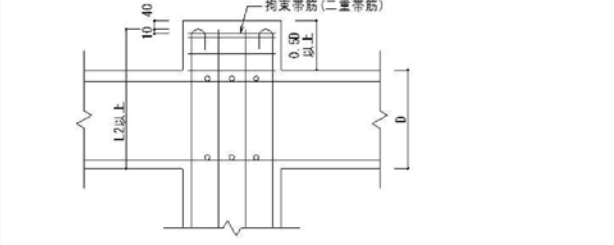


※1. 柱頭主筋は全数フック付きで定着長さ(L2h)を確保し、梁上端筋の下側まで延長すること。
※2. かんざし筋は、あばら筋と同径@200以下とする。

(b) 柱頭部主筋の定着長が不足した場合の納まり (1) 柱頭部補強かご筋による納まり



(2) 柱を突出させた場合の納まり



【注】拘束帯筋は梁上端筋の上に設ける帯筋で、柱頭部の帯筋と同径かつD13以上とする。

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	雑配筋標準図（１）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮 尺	—
適 要		図面番号	S-06
検 印	管理建築士	設 計	製 図
	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉	株 会 社 宮平設計
	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号	一級建築士 大臣登録 第350160号
	所 在 地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号	

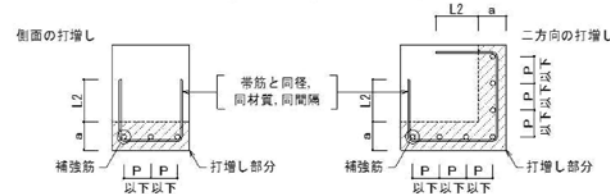
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

雑配筋標準図（2）

4. 柱梁の打増し補強

・打増し寸法が（70mm）未満の場合、補強は不要とする。

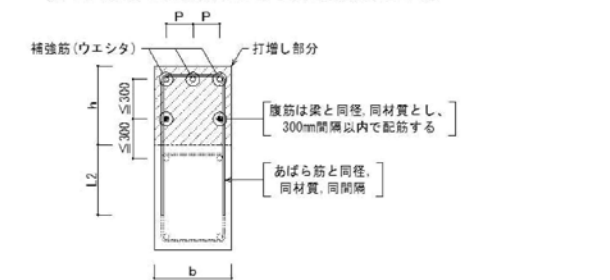
（a）柱の打増し補強は、下図、下表による。下表を超える打増しの場合は、特記による。
なお、梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。



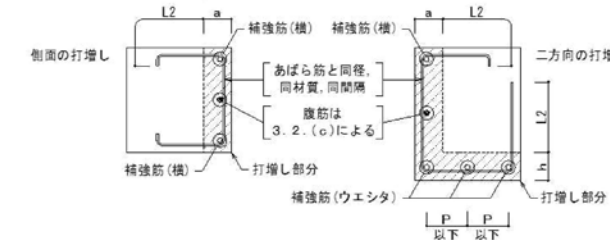
打増し高 a	補強筋
70mm ≤ a ≤ 200mm	P ≤ 250mm -D16
200mm < a ≤ 300mm	P ≤ 200mm -D※

※は、柱主筋の1サイズ下の径とする。

（b）梁の打増し補強は、下図、下表による。下表を超える打増しの場合は、特記による。
なお、小梁、耐力壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。
（1）梁上端の打増し補強（梁下端の打増しも同じ配筋要領とする）



（2）梁側面、二方向の打増し補強



打増し高 h	補強筋 (ウエシタ)
70mm ≤ h ≤ 200mm	2-D16
200mm < h	2-D※

打増し高 a	補強筋 (横)
70mm ≤ a ≤ 200mm	1-D16
200mm < a ≤ 300mm	2-D※

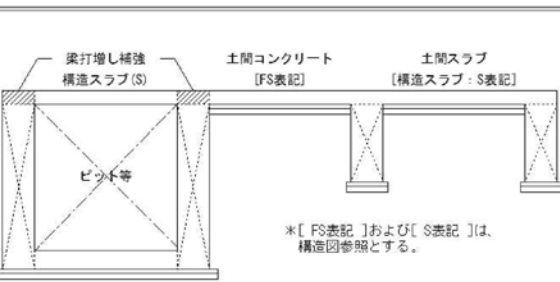
※は、梁主筋の1サイズ下の径とする。

（c）打増し部補強筋の定着長さ



5. 土間の打継ぎ補強等

- ・土間は、地盤上に打設される床とし、ビット等上部にあるスラブと基礎梁接合部は、梁打増し補強とする。（雑配筋標準図（2）参照）
- ・土間スラブは、構造スラブとする。（S表記）
- ・土間コンクリートは、地盤に支持されるRC床とする。（FS表記）



※[FS表記]および[S表記]は、構造図参照とする。

a) 土間スラブの打継ぎ補強（構造スラブ：S表記）
基礎梁とスラブを一体打ちしない場合、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

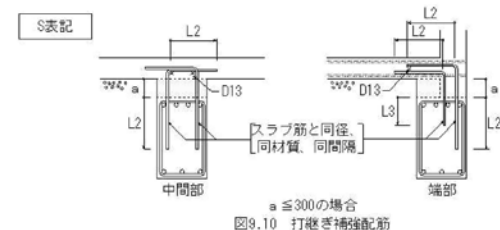


図9.10 打継ぎ補強配筋

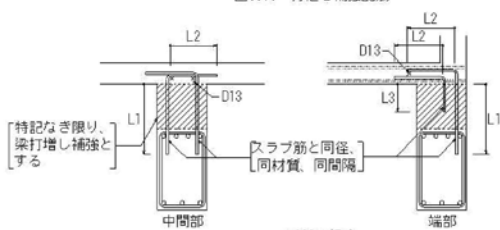


図9.11 打継ぎ補強配筋

b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋（FS表記）
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。

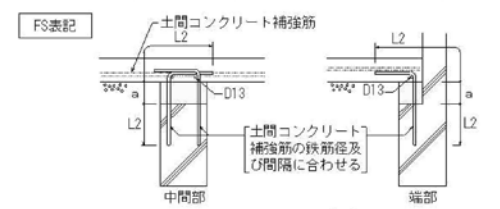


図9.12 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

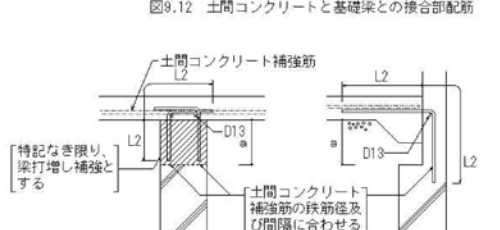
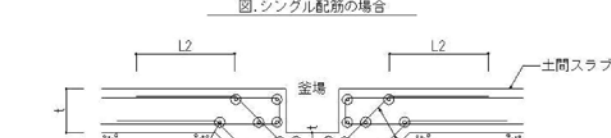
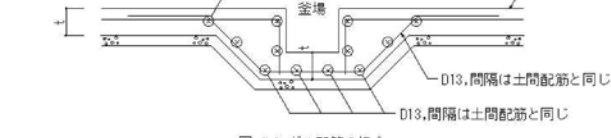
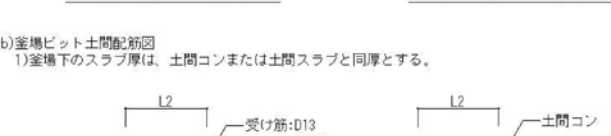
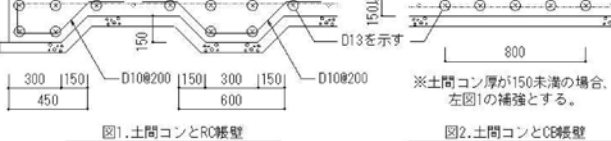
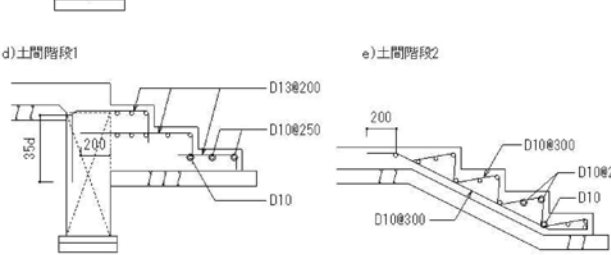
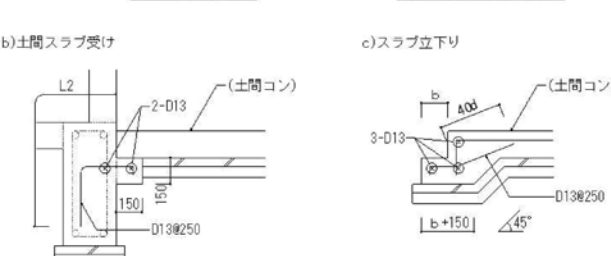
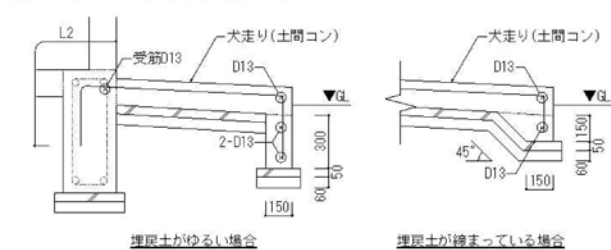


図9.13 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

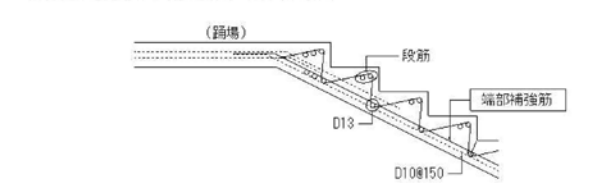
6. 犬走り等スラブ配筋

a) 犬走り ※土間コン配筋は、構造図による。

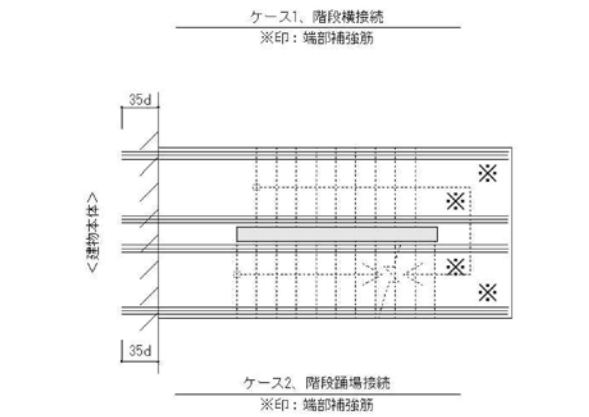
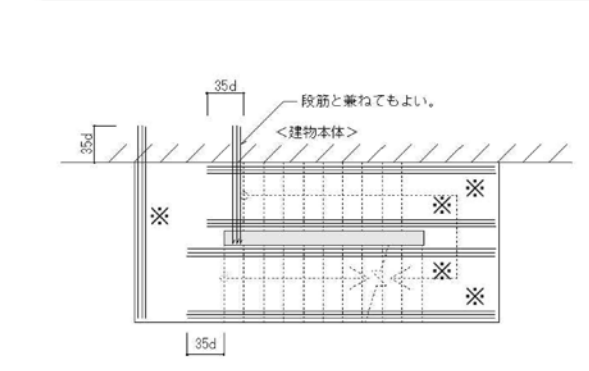


8. 外階段端部補強筋

外階段の段筋及びその他配筋は、構造図による。



タイプ	配筋図	端部補強筋
タイプ1 (シングル)		3-D16
タイプ2 (シングル)		3-D19
タイプ3 (ダブル)		上筋：3-D13 中筋：2-D16 下筋：3-D13



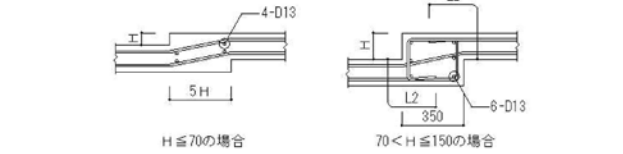
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造（プレハブ）事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	雑配筋標準図（2）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	—
適要		図面番号	S-07
検印	管理建築士 設計 製図	名称	株式会社 宮平設計
		資格者氏名	一級建築士 徳村 泉
		登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号
		所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号

雑配筋標準図（3）

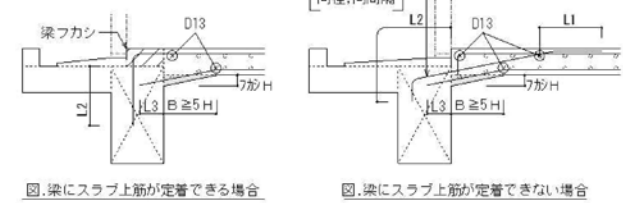
9. 段差のあるスラブ・小梁補強

a) 段差のあるスラブの補強配筋



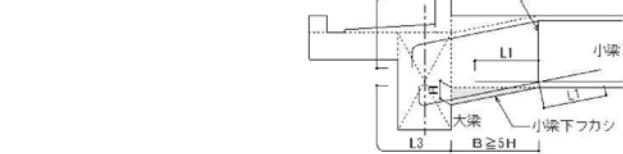
b) スラブフカシ配筋

- 1) フカシ形状は構造図による。
2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。



c) 段差のある小梁配筋

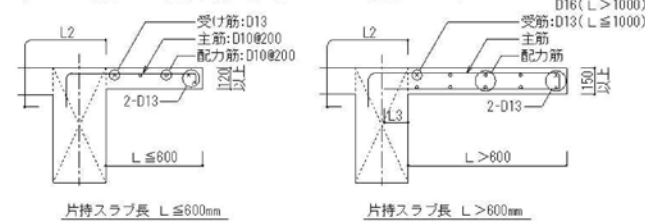
- 1) フカシ形状は構造図による。
2) 特記なきフカシ幅Bは、5H以上とする。



10. 片持ちスラブ配筋

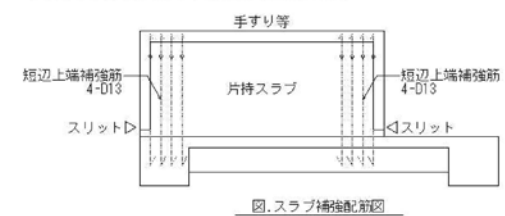
a) 片持ちスラブ配筋

- 1) 特記なき片持ちスラブの基準断面および配筋は、下図による。
2) 片持ちスラブの出が600mmを超える場合、断面および配筋は構造図による。
3) 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
4) スラブに段差がない場合、主筋を引き通してスラブに定着してよい。

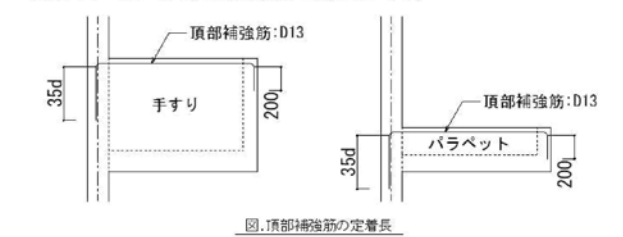


b) 片持ちスラブ出隅部補強

- 1) 出隅部手すり等にスリットを設けた場合のスラブ補強筋図は、下図による。
※1. 補強筋は短辺スラブ上端筋の間に配筋する。
※2. 手すり等のスリットの有無は、構造図による。



- 2) 出隅部手すり・パラベット等にスリットを設けない場合の配筋図は、下図による。
※1. 手すり・パラベットの横筋定着長は、壁筋と同じとする。

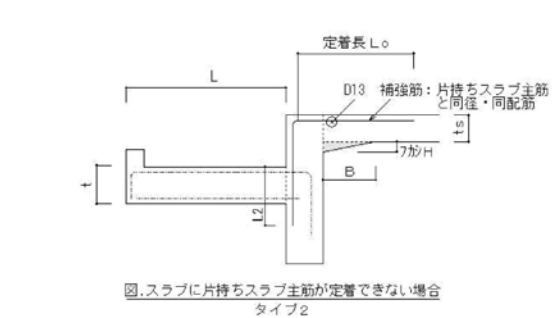
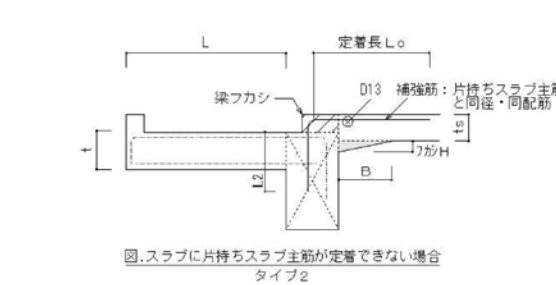
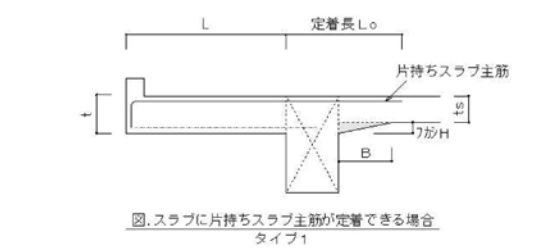


11. 片持ちスラブ接合部補強および主筋定着長

片持ちスラブ接合部補強による各寸法(下図参照)

片持ちスラブ	タイプ	フカシ高H	フカシ幅B	定着長Lo

- 注 1) フカシ高H ≧ 片持ちスラブ厚t + 連続スラブ厚ts
2) フカシ幅B ≧ 5H以上
3) 定着長Lo ≧ 片持ちスラブ長L × 2/3以上



12. 手すり・パラベット等配筋

a) パラベット・出窓等返しスラブ配筋

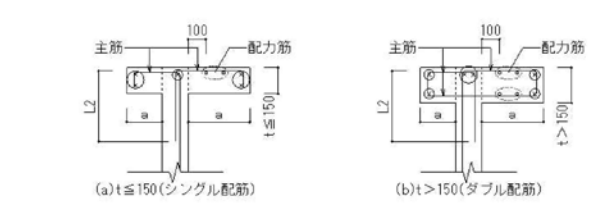
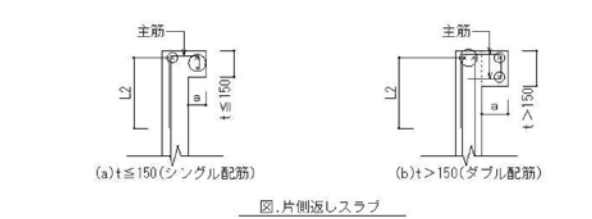


表. 返しスラブ配筋		
a	主筋	配筋筋
a ≤ 0.25m	D10φ150	-
0.25m < a ≤ 0.80m	D10φ150	D10φ200

※ 〇 : 補強筋D13を示す。

b) テスリ・パラベット等立上り壁配筋

- 1) 手すり・パラベット等の配筋図は、下図による。
2) 手すり・パラベット高が1.5mを超える場合は、特記による。

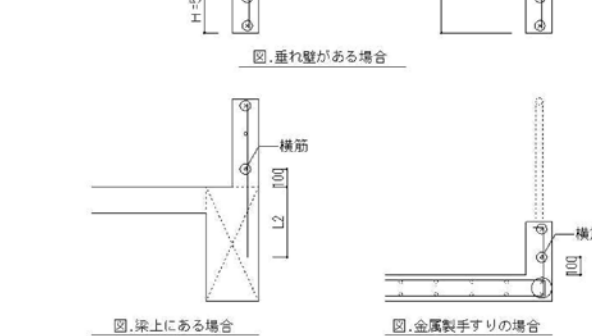
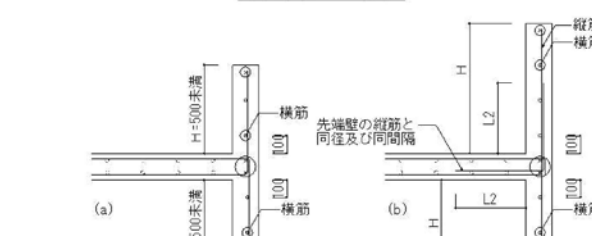
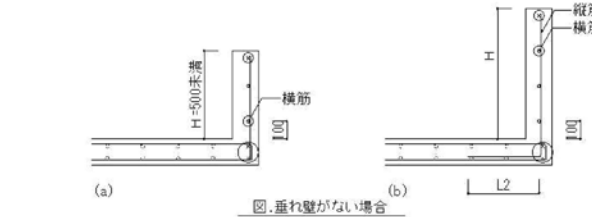
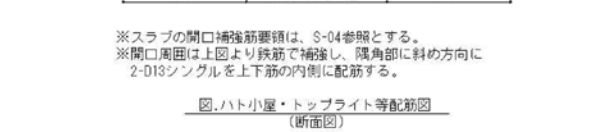
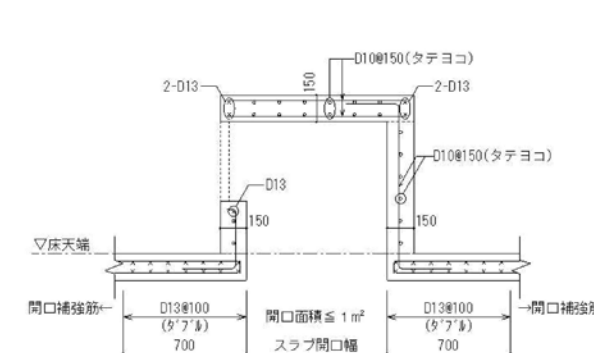
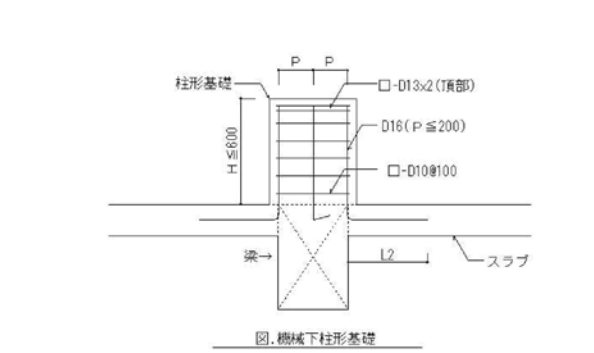
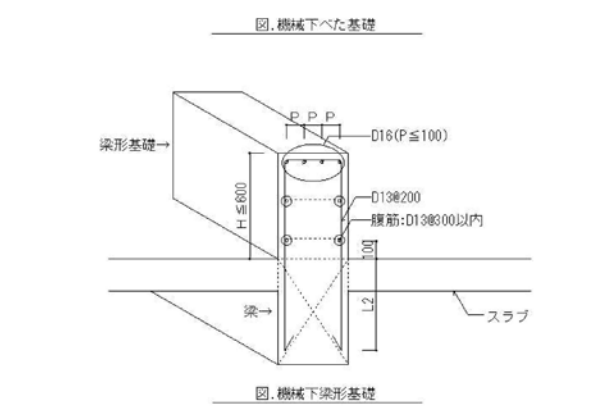
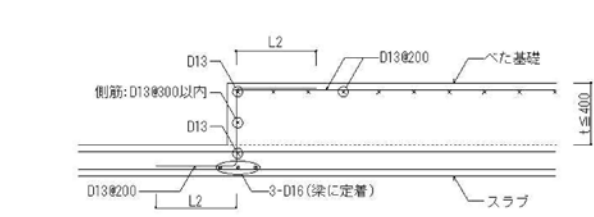


表. 先端壁配筋		
H	縦筋	横筋
H ≤ 1.2m	D10φ150	D10φ150
1.2m < H ≤ 1.5m	D1013φ150	D10φ150

※ 〇 : 補強筋D13を示す。

13. 機械基礎およびハト小屋等配筋

- 1) 機械基礎およびハト小屋等配筋図は、図4.1～図4.4による。
2) 各部材断面が図4.1～図4.4より大きくなる場合は、特記による。



※スラブの開口補強筋要領は、S-04参照とする。
※開口周囲は上図より鉄筋で補強し、隅角部に斜め方向に2-D13シングルを上下筋の内側に配筋する。



有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	雑配筋標準図（3）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	—
適要		図面番号	S-08
検印	管理建築士	設計	製図
名称	株式会社 宮平設計	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉
登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号	所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目6番9号

14. コンクリート打継ぎ位置

(a) 梁およびスラブの鉛直打継ぎ部

- ・打継ぎはできるだけ少なくし、応力の小さいところで打継ぐ。
- ・各部材(梁、片持ち梁、小梁、スラブ)の付け根での打継ぎは避ける。
- ・スパンが $5m$ 以下の場合、スパン中央付近又はスパンの $1/3 \sim 1/4$ のところがよい。
- ・スパンが $5m$ を超える場合、スパンの $1/3 \sim 1/4$ のところがよい。

スパンが $5m$ 以下の場合

スパンが $5m$ を超える場合

(b) 柱および壁の水平打継ぎ部

- ・スラブ、壁梁又は基礎の上端に設ける。

地盤・地業	地 盤	地 業	捨コン	備考		
構造部位	土 質	N 値	厚 (mm)	厚 (mm)		
直接基礎床下	岩盤	N ≥ 10	地はだ	100	※1	
	土丹	N < 10	砂 利	100		
	砂 礫	N ≥ 10	砂 利	60		
		シルト 粘土 ローム	N < 2	砂 利		150
		N ≥ 2	砂 利	60		
杭基礎床下	-	-	砂 利	60	50	
基礎梁下	-	-	砂 利	60	50	※1
土間コンクリート下	砂礫	-	砂 利	-	-	※2
	砂礫 埋戻し 土等	-	砂 利	60	-	
土間床 床下 (構造スラブ)	-	-	砂 利	60	50	※3
玄関ポーチ下等下	-	-	砂 利	60	-	※4

表 ハンチ起点のあばら筋幅強

主筋径	1/3	1/3.5	1/4	1/4.5	1/5	①-D13	②-D13
D19	ハンチ配 (1/n)						
D22	①-D13						
D25							
D29	②-D13						
D32	③-D13						

誘発目地の設置位置(平面図)

工事名称	沖縄県中央相談所経量鉄骨造（プレハブ）事務所増築工事			工事年度	令和 7 年度	
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2			図面名称	雑配筋標準図（4）	
発注機関	沖縄県中央児童相談所			縮 尺	—	
適 要				図面番号	S - 0 9	
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 計 者	名 称	株式会社 宮平設計
					資格者氏名	一級建築士 徳村 泉
					登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号
					所 在 地	沖縄県那覇市 首里山川町3丁目61番9号

鉄骨構造標準図 (1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

- (a) 構造設計仕様による。
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、構造及びその他の結果を添付する。

(2) 工作一般

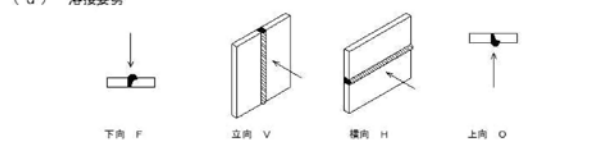
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼骨部材の分岐部手前の部材切断は、鋼骨自動切断機による。
(c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする。

(3) 高力ボルト接合

- (a) 本構に使用するボルトと、仮締めボルトの使用はしてはならない。

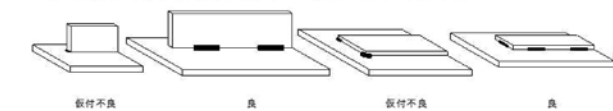
(4) 溶接接合

- (a) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z 3801 (平溶接) 又はJIS Z 3841 (平自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し、引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
- (b) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭素ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアー・ガウジング機 (直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機1式 (ヘ) 溶接機乾燥器
- (c) 溶接方法
アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアー・ガウジング (AAG)
- (d) 溶接姿勢



(e) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

- (イ) 仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。



- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(f) 溶接施工

- (イ) エンドタブ
I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の間隙部に母材と同厚で間隙形状のエンドタブを取り付ける。
II) エンドタブの材質は、母材と同質とする。
III) エンドタブの長さ、MC: 35mm以上
NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度露し切断して、グラインダー仕上げとする。
IV) プレス鋼板タブ、図形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る。
- (ロ) 裏はつり
材質は母材と同質材料とし厚さは平溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする。
- (ハ) スカラップ半径は 30～50mm と 10mm のダブルールとする
組立梁成が D=150mm 未満の場合のスカラップは r=20mm とする (ニ) ノンスカラップ工法
- (イ) 裏はつり
既設図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を
履行し、新材に確認マークをつける。
- (イ) 現場溶接の開先図には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部
をいたない様に、裏面を行う。

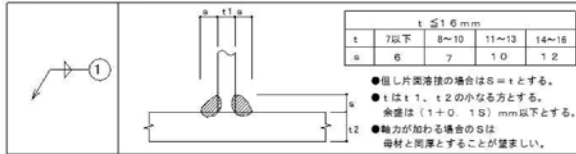
(5) 塗装

- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接合部で、コンクリートと
一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

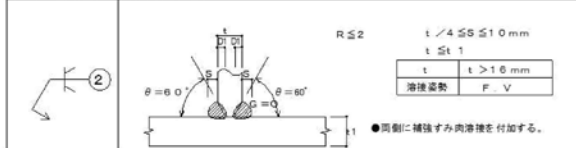
2. 溶接基準図

(注) F: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 縦長 (単位mm)

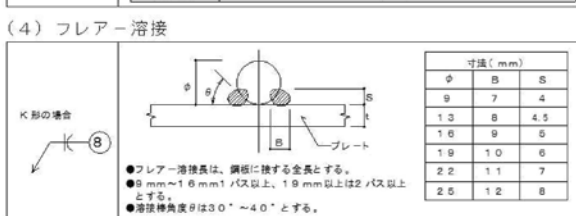
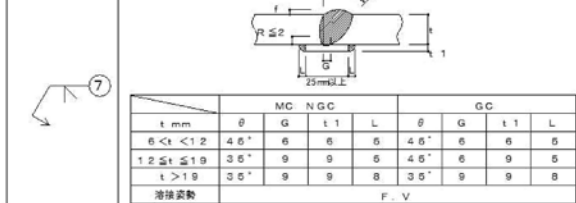
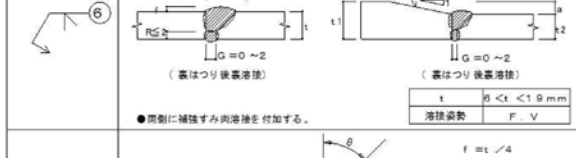
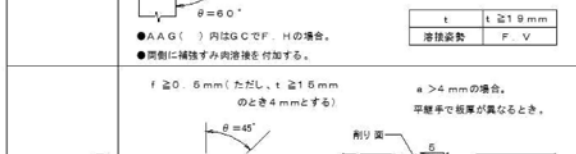
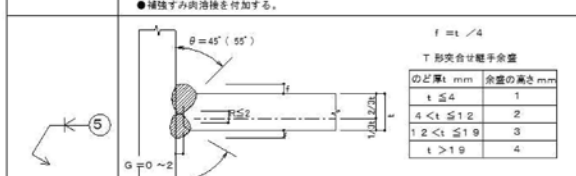
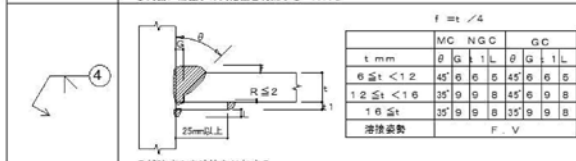
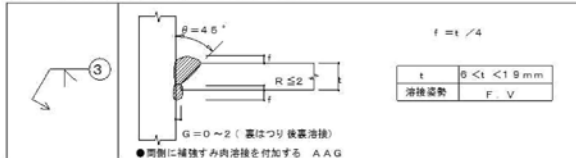
(1) スミ肉溶接



(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所は注意)



(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

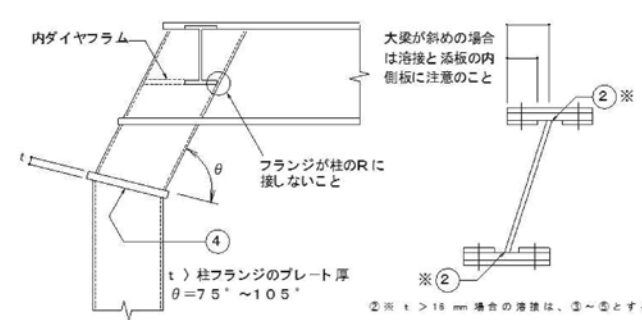


●鋼材種別による溶接条件

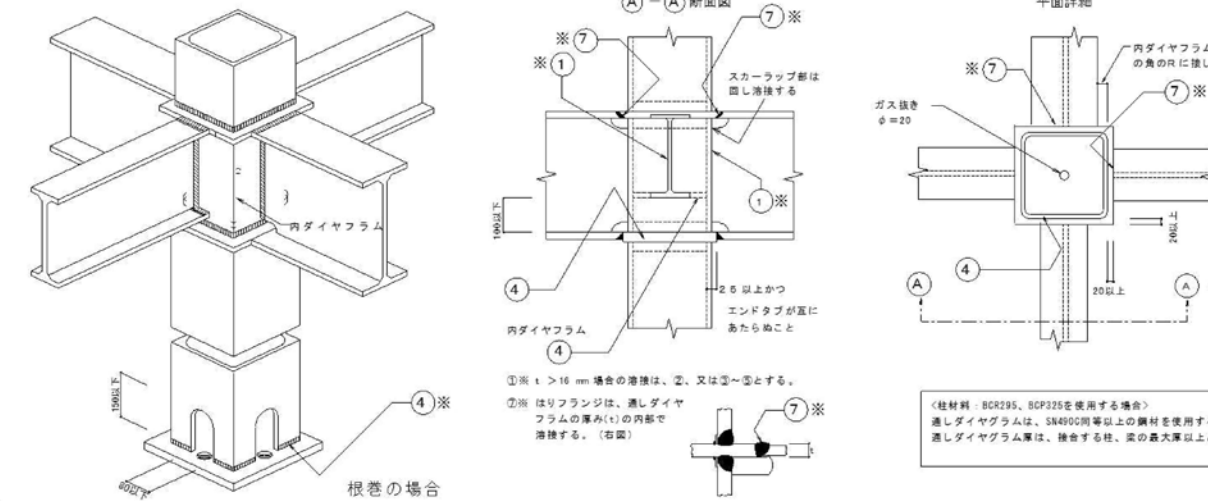
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	パス間温度 (℃)
400N級 鋼	JIS S 3211, 3212, 3214	40 以下	350 以下
	YGW-11, 15		
	YGA-50W, 50P		
490N級 鋼	JIS S 3212, 3214	40 以下	350 以下
	YGW-11, 15		
	YGA-50W, 50P		

※ 溶接記号番号を○中に記入のこと

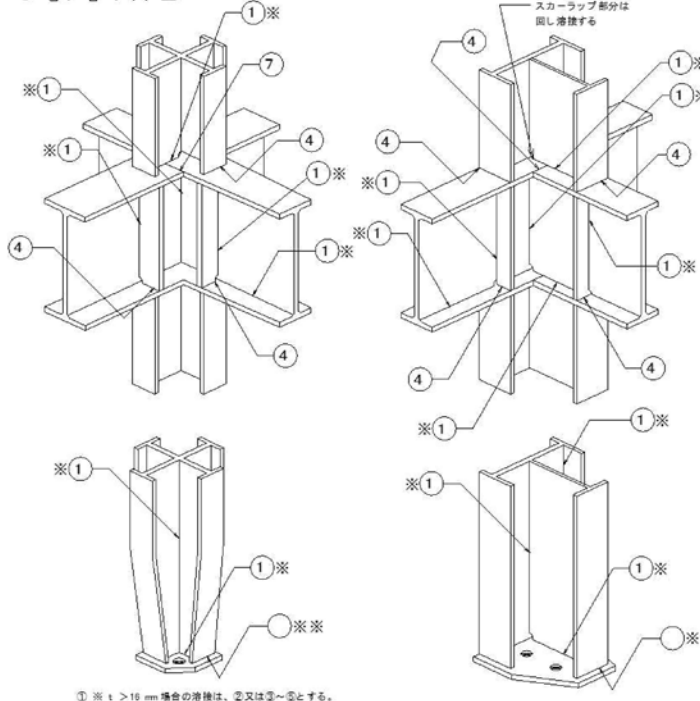
●柱が途中で折れる場合 及 梁成が異なる場合



●B×X型 (通しダイヤフラムの場合)



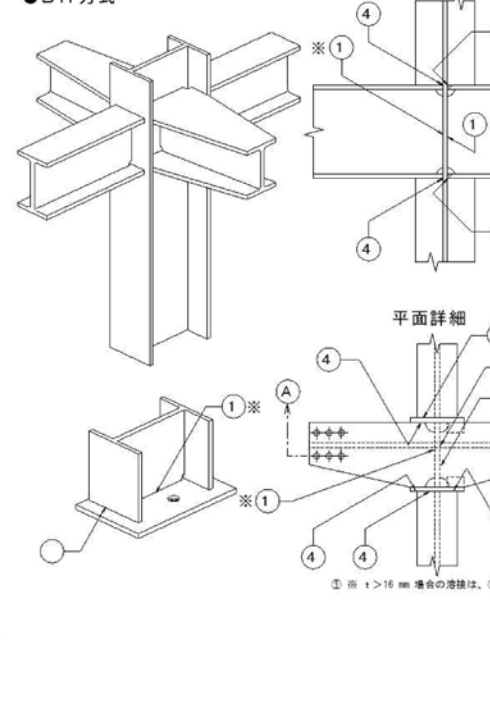
●H、H、H型



① ※ t > 16 mm 場合の溶接は、②又は③とする。

○ ※ ※印は設計者が記入すること。

●BH方式



① ※ t > 16 mm 場合の溶接は、②又は③とする。

○ ※ ※印は設計者が記入すること。

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	鉄骨構造標準図 (1)
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	—
適要		図面番号	S-10
検印	管理建築士	設計	製図
	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉	株式会社 宮平設計
	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号	
	所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目6番9号	

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

鉄骨構造標準図 (2)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

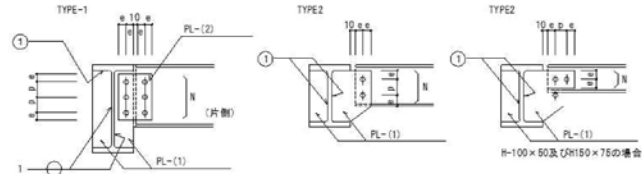
(1) ボルト共通事項

呼び	ボルト孔 (mm)			締結距離 e (mm)	ピッチ p (mm)	
	F10T, S10T	S8T ※1	中ボルト ※2		最少	標準
M12	14.0	—	12.5 (13.0)	25	40	60
M16	18.0	17.5	16.5 (17.0)	30	40	60
M20	22.0	22.0	20.5 (21.0)	35	50	60
M22	24.0	24.0	22.5 (23.0)	40	55	60

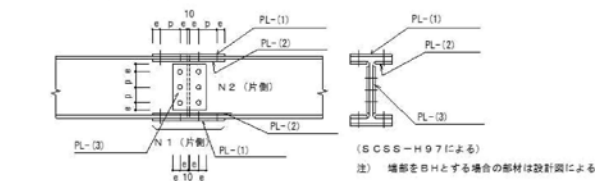
※1. 建設大臣認定条件による。

※2. () 内数値は、母屋・脚縁等とする。

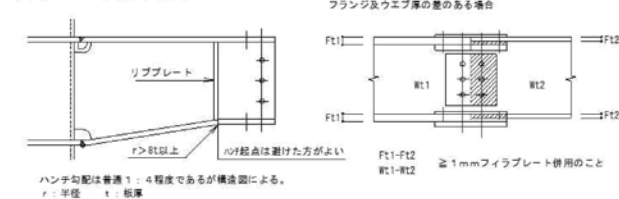
(2) ビン接合梁継手リスト



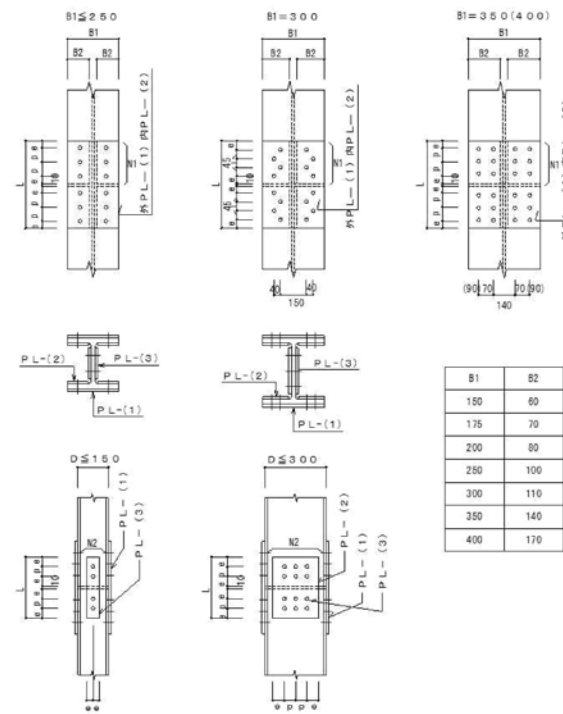
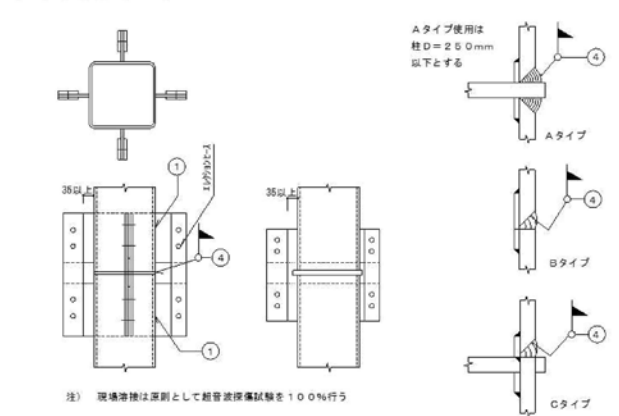
(3) 梁鋼接合継手リスト



(4) ハンチ部の継手



(5) 柱継手リスト (SCS-G-H97による)

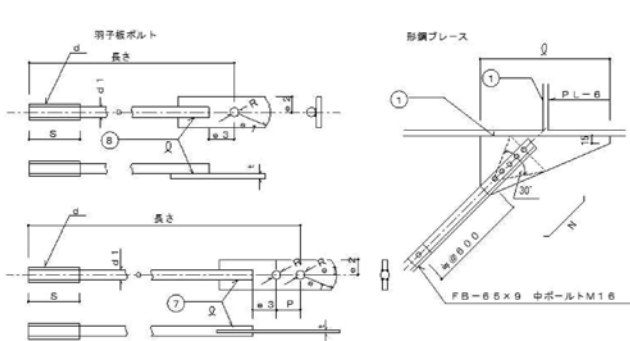


(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする・・・JIS A 5540・1982/5541・5542・2003)

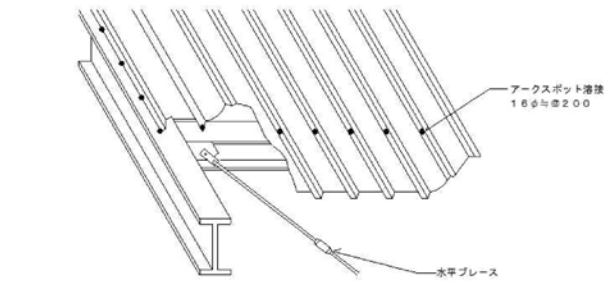
(a) 羽子板ボルト		ねじの呼び (d)							
軸径 d 1	最大	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	
		10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99	
調整ねじの長さ	S	100	115	125	140	150	165	175	
		100	115	125	140	150	165	175	
取付ボルト穴径 (許容差+0.0-0.5mm)	R	12	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5	
		12	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5	
はしあき (最小) (2)	φ	φ1	35	40	45	50	55	50	
		φ2	22	28	28	34	34	38	
切板型	板厚 t	φ1	4.5	5	5	9	9	9	
		φ2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	
平鋼製	板厚 t	φ1	4.5	6	6	9	9	9	
		φ2	47	52	59	66	66	73	
ボルト穴からボルト穴のあき (最小)	φ	φ3	47	52	59	66	66	73	
		φ4	40	50	55	60	75	85	
溶接長さ (最小)	Q	φ1	40	50	55	60	75	85	
		φ2	40	50	55	60	75	85	
取付ボルト (2)	規格	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は							
		JIS B 1180 中8φ 10.9							
ねじの呼び	本数	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20	
		1	1	1	1	1	1	2	

注 (1) φ1, φ2が確保されていれば形状は自由でよい

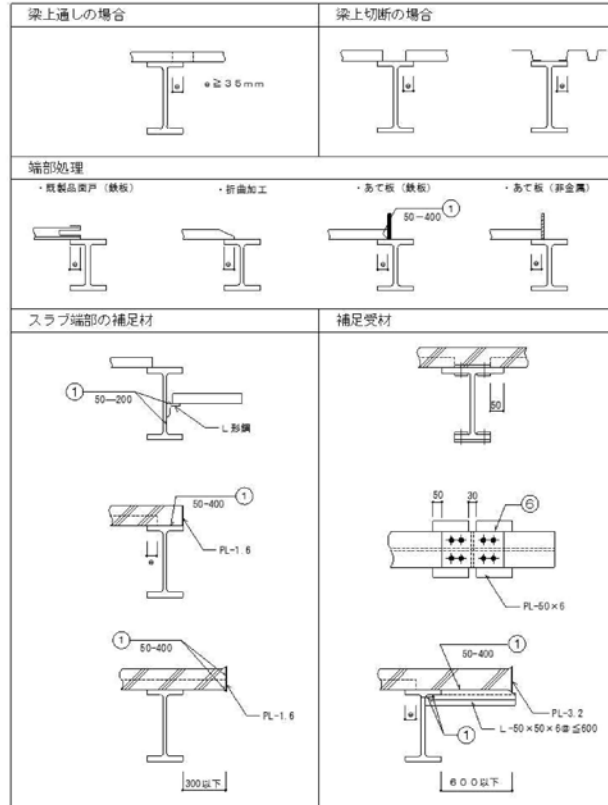
(2) 羽子板とガセットプレートの接合位置に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (変圧) 接合とする



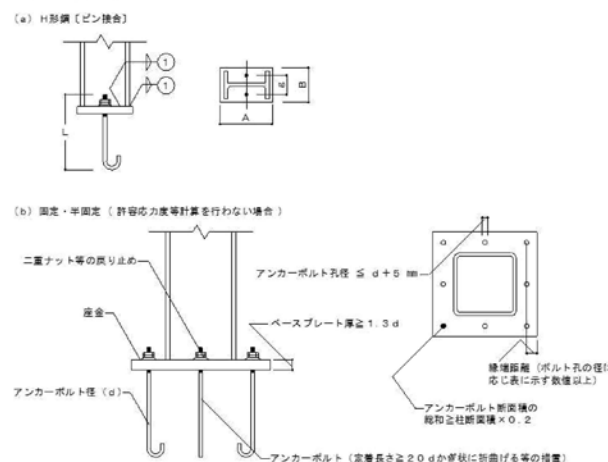
(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成床のときは構造図参照)



受梁へのかかり寸法および端部処理



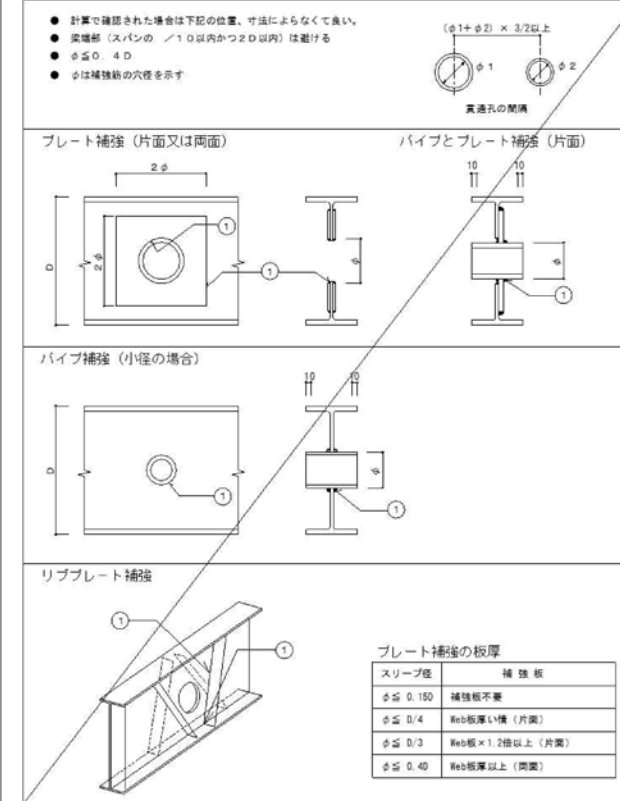
(8) 露出注脚



(9) 頭付きスタッド (JIS 1198)

形状	スタッド材				
	呼び径	軸径 d	頭径 D	頭高さ T	溶接後の長さ L
φ13mm	mm	mm	mm	mm	mm
	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130	
φ16mm	mm	mm	mm	mm	mm
	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130	
φ19mm	mm	mm	mm	mm	mm
	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150	
φ22mm	mm	mm	mm	mm	mm
	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150	

(10) 梁貫通補強

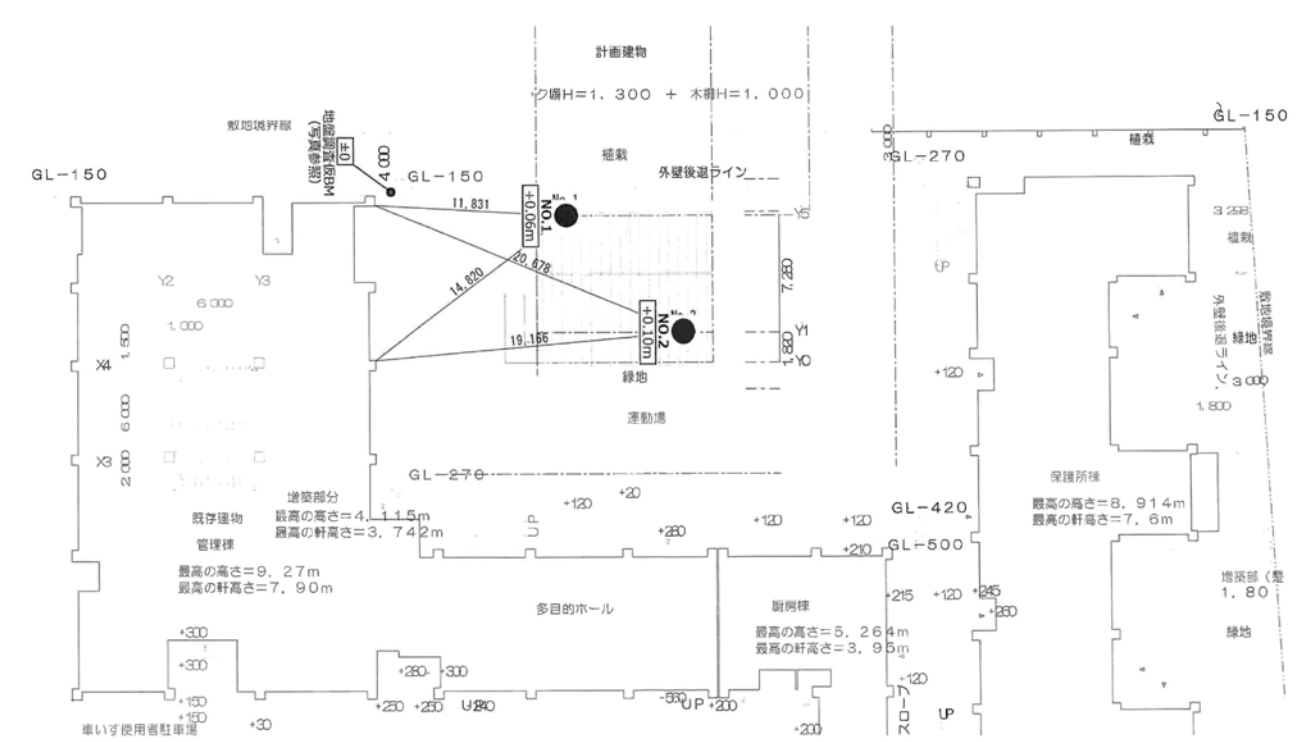
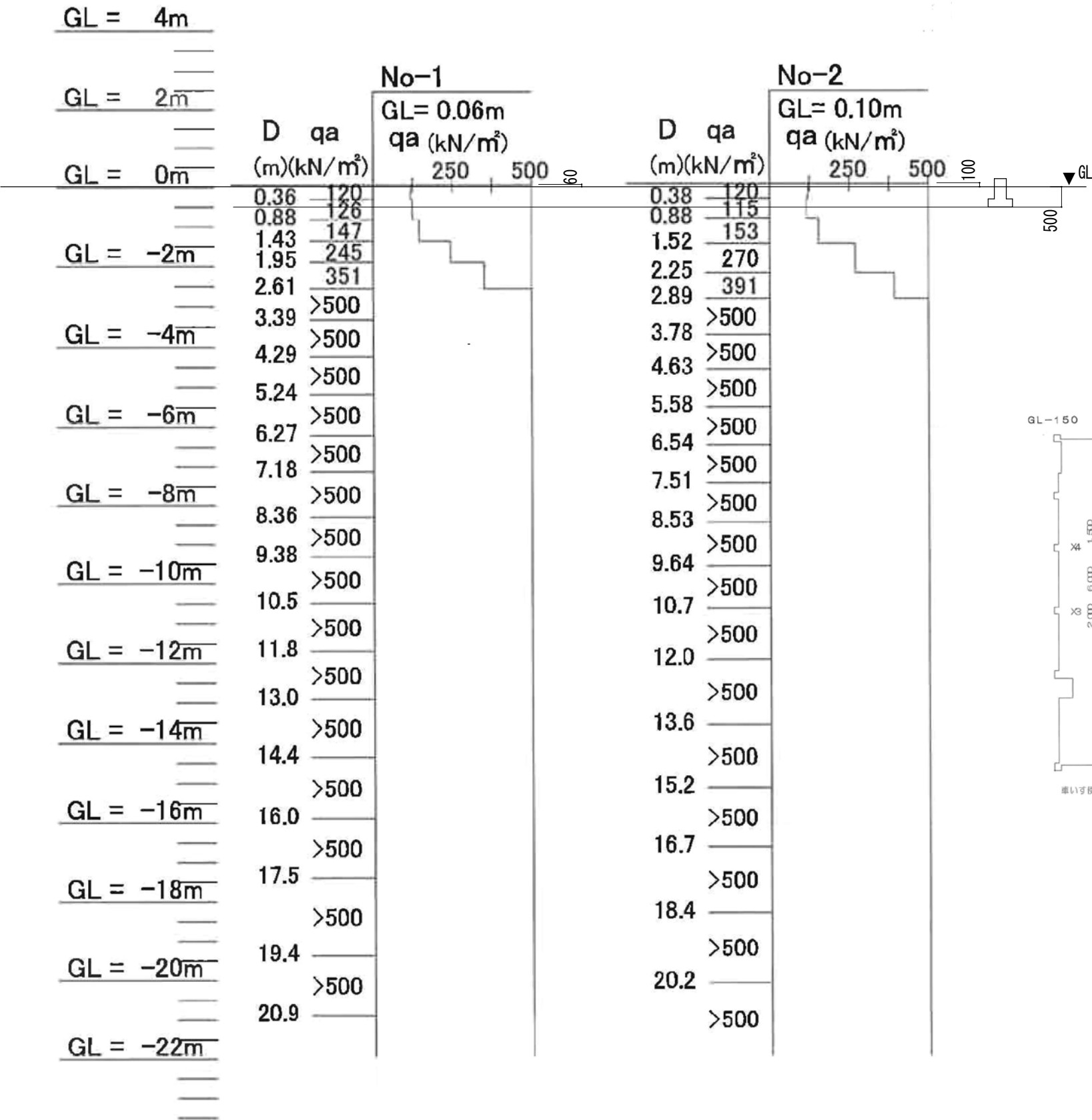


・鉄骨梁貫通孔の補強は、既製品[スーパハリー-M同等品]を使用すること。(S-84参照)
・工事着工前に現場監理と協議し、安全性を確認すること。

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	鉄骨構造標準図 (2)
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	—
適要		図面番号	S-11
検印	管理建築士	設計	製図
設計者	名称	株式会社 宮平設計	
	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉	
所在地	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号	
		沖縄県那覇市 首里山川町三丁目6番1号	

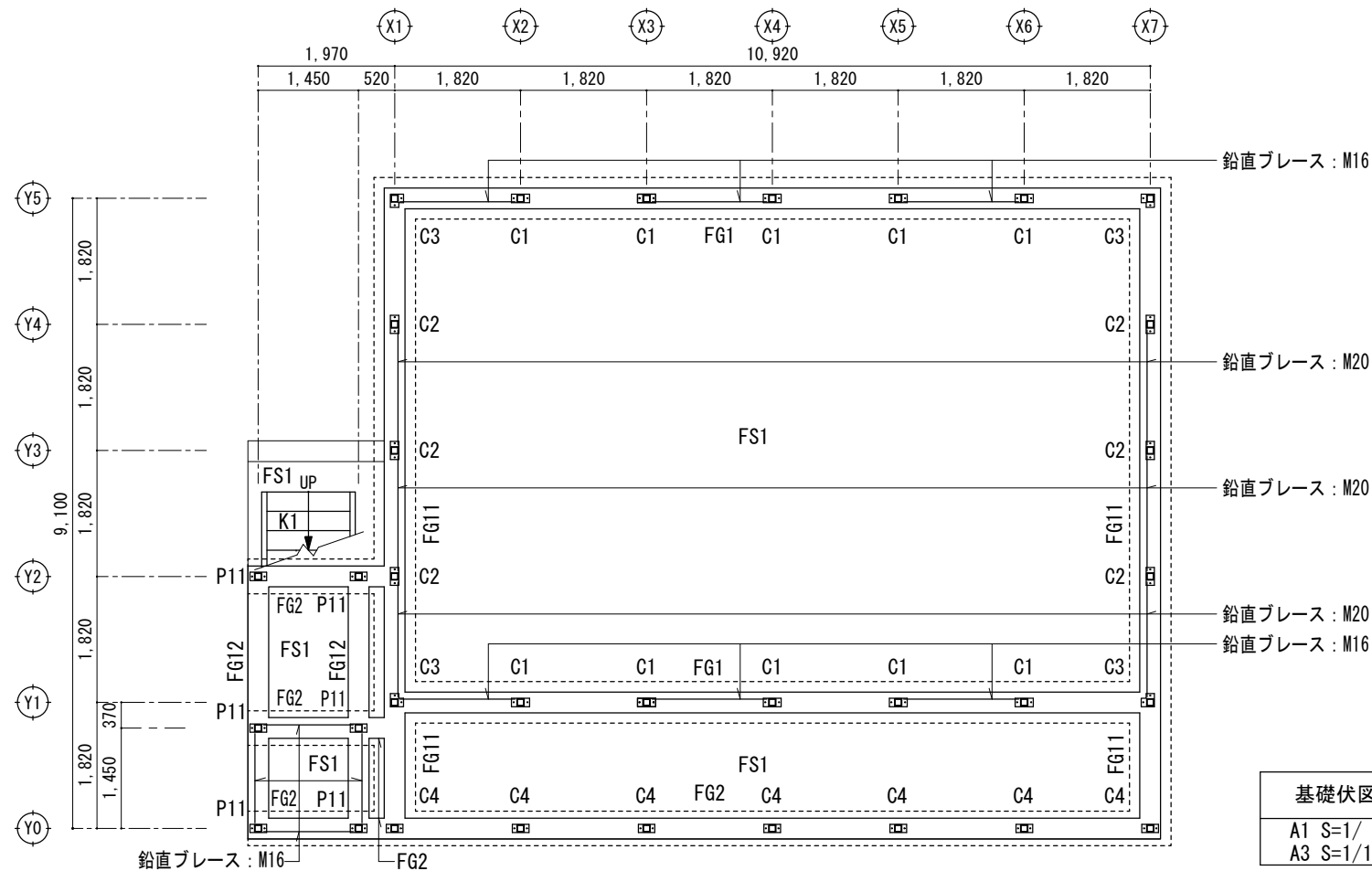
表面波探査 【許容支持力換算 グラフ】



調査位置図

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	地質調査結果
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	—
適要		図面番号	S-12
設計	管理建築士 設計 製図	名称	株式会社 宮平設計
資格者氏名	一級建築士 徳村 泉	資格者氏名	一級建築士 徳村 泉
登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号
所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号	所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号

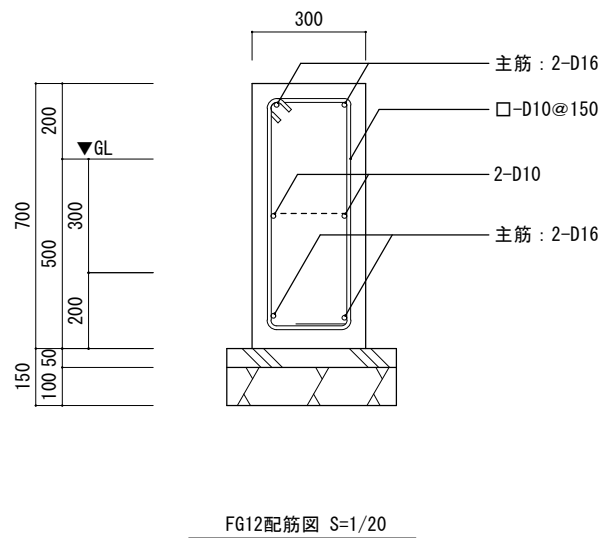
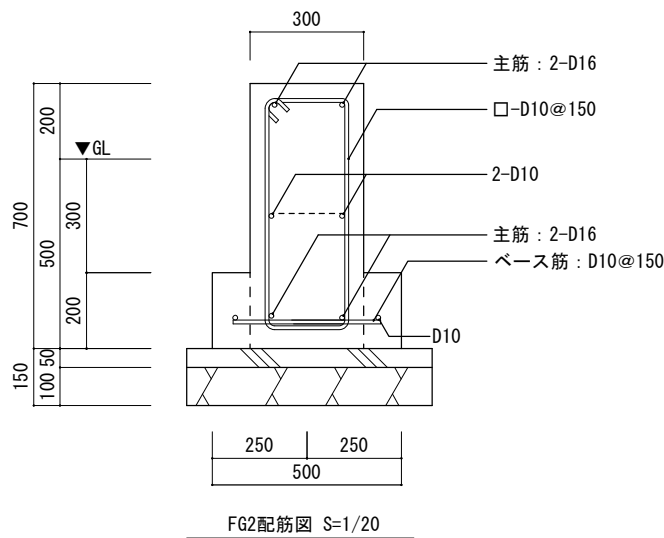
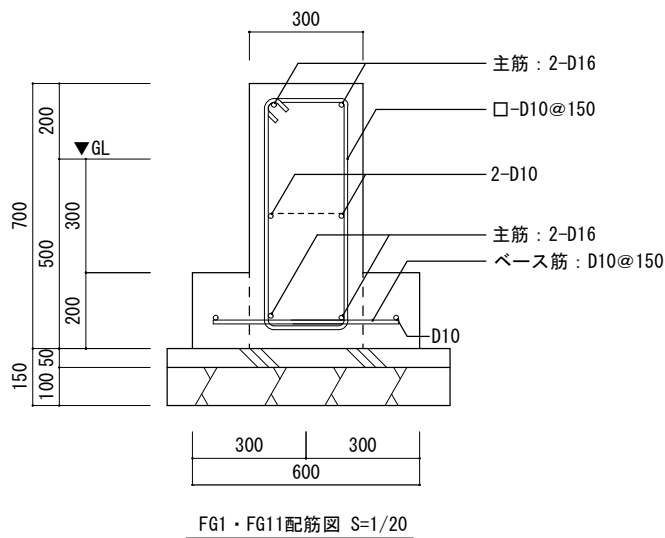
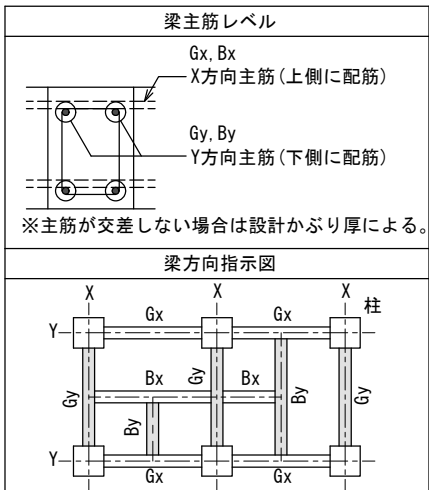
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号
一級建築士 第141385号
構造設計一級建築士 第9036号



基礎仕様
・直接基礎（布基礎）
・長期許容支持力：Lqa = 100 kN/m ²
S-12 地盤調査結果を参照

特記なき限り下記による
1) 柱は下階からの通し柱とする。
2) 基礎下端レベルはGL-500とする。

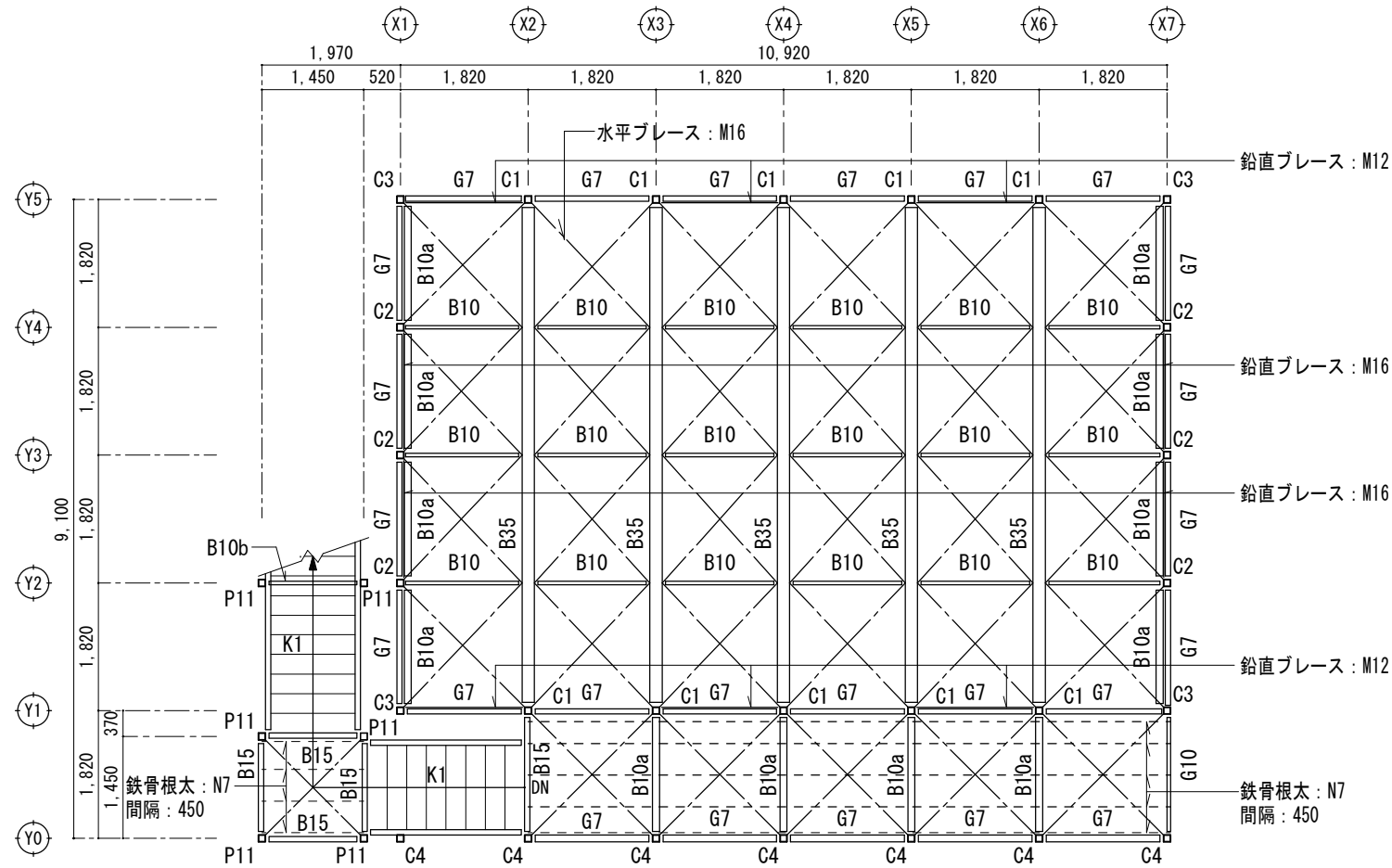
基礎伏図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100



スラブリスト					
符号	スラブ厚	スラブ配筋			備考
		配筋	短辺方向	長辺方向	
FS1	120	ワイヤメッシュ	3. 2φ x150x150	――	地業：敷砂利厚さ100

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

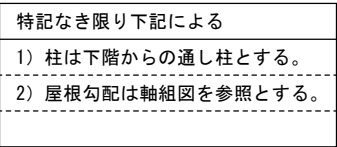
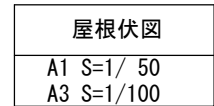
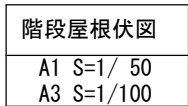
工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	基礎伏図・基礎リスト・スラブリスト
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	1/100
適要		図面番号	S- 13
検印	管理建築士	設計	製図
名称	株式会社 宮平設計		
資格者氏名	一級建築士 徳村 泉		
登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 大臣登録 第350160号		
所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号		



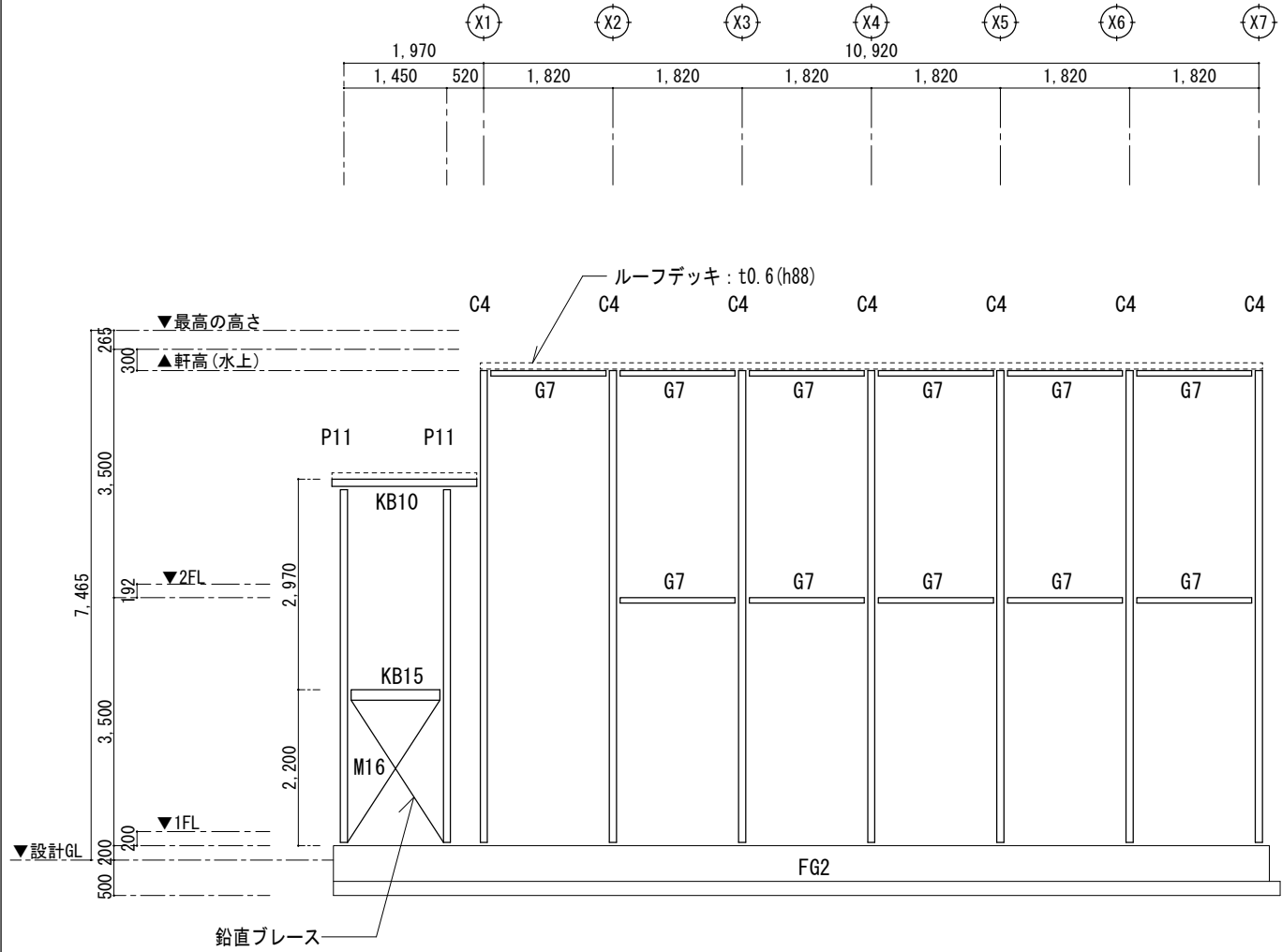
2 階梁伏図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100

- 特記なき限り下記による
- 1) 柱は下階からの通し柱とする。
 - 2) 鉄骨梁天端 = 2FL-192
 - 3) 室内床は木床としS-20を参照

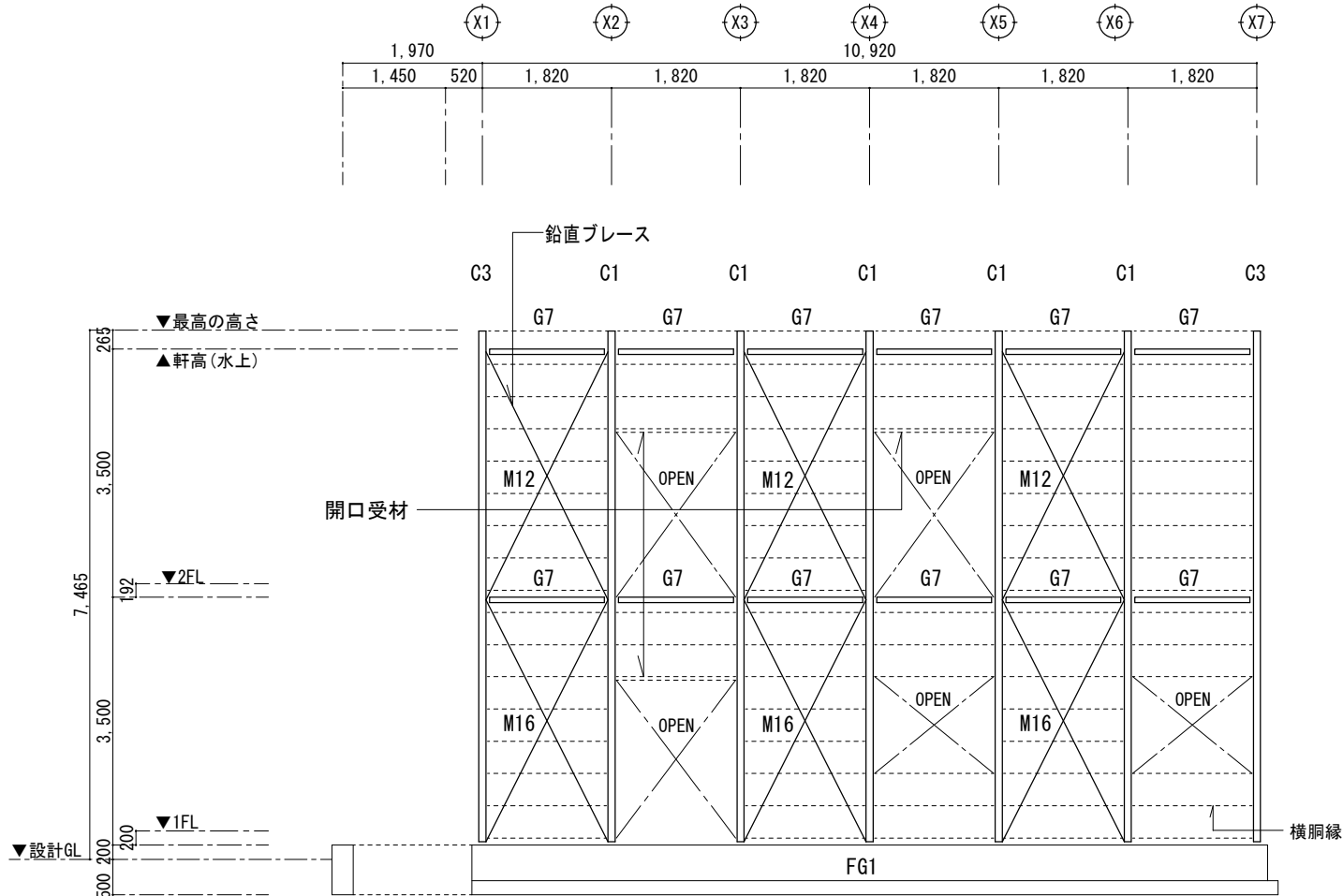
	工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事		工事年度	令和7年度		
	工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2		図面名称	2階梁伏図		
	発注機関	沖縄県中央児童相談所		縮 尺	1／100		
	適 要			図面番号	S－14		
	検 印	管理建築士	設 計	製 図	設計者	名 称	株式会社 宮平設計
				資格者氏名		一級建築士 徳村 泉	
				登録番号		一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号	
				所 在 地		沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号	
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号 一級建築士 第141385号 構造設計一級建築士 第9036号							



工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事			工事年度	令和7年度	
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2			図面名称	屋根(上側)伏図	
発注機関	沖縄県中央児童相談所			縮 尺	1/100	
適 要				図面番号	S-15	
検 印	管理建築士	設 計	製 図	設 計 者	名 称	株式会社 宮平設計
					資格者氏名	一級建築士 徳村 泉
					登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号
					所 在 地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号



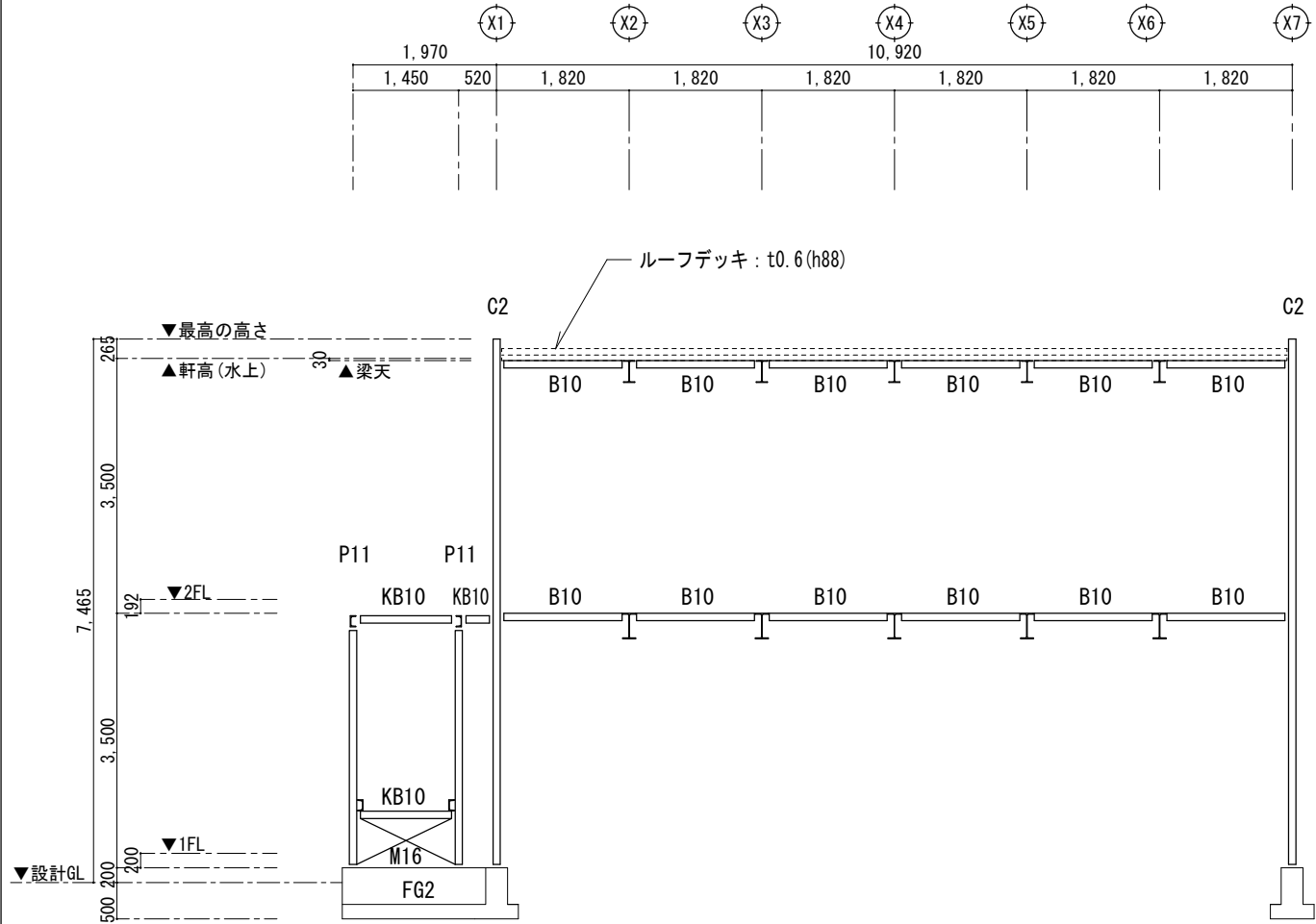
Y0通り軸組図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100



Y1通り軸組図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100

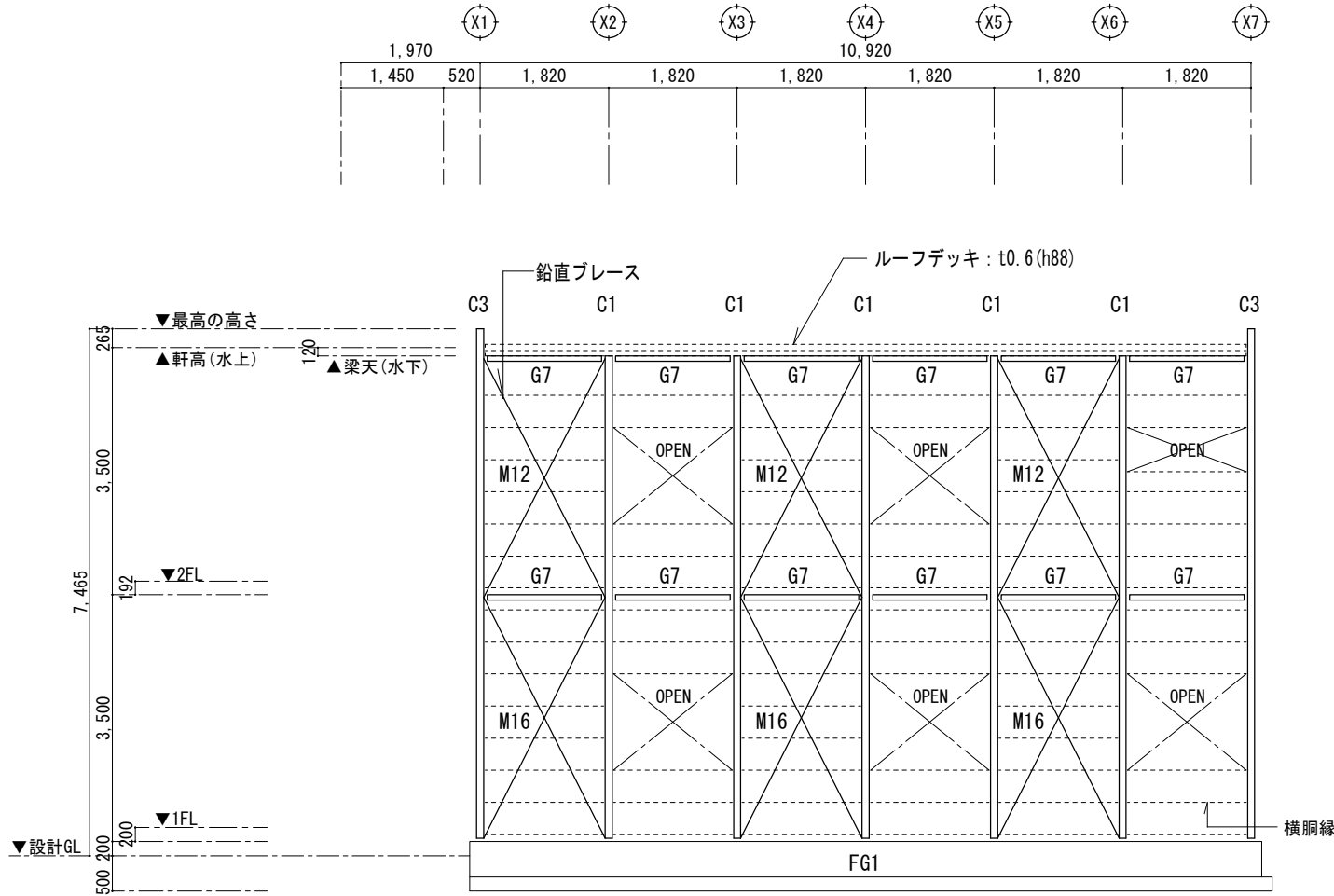
特記なき限り下記による
1) 横胴縁の間隔：450mm
横胴縁サイズ：
□-60x60x2.3（ブレース設置あり）
C-75x45x20x2.3（ブレース設置なし）

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造（プレハブ）事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	軸組図（1）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	1／1000
適要		図面番号	S-16
検印	管理建築士	設計	製図
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号 一級建築士 第141385号 構造設計一級建築士 第9036号		名称	株式会社 宮平設計
		資格者氏名	一級建築士 徳村 泉
		登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号
		所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号



Y2通り軸組図

A1 S=1/ 50
A3 S=1/100



Y5通り軸組図

A1 S=1/ 50
A3 S=1/100

特記なき限り下記による

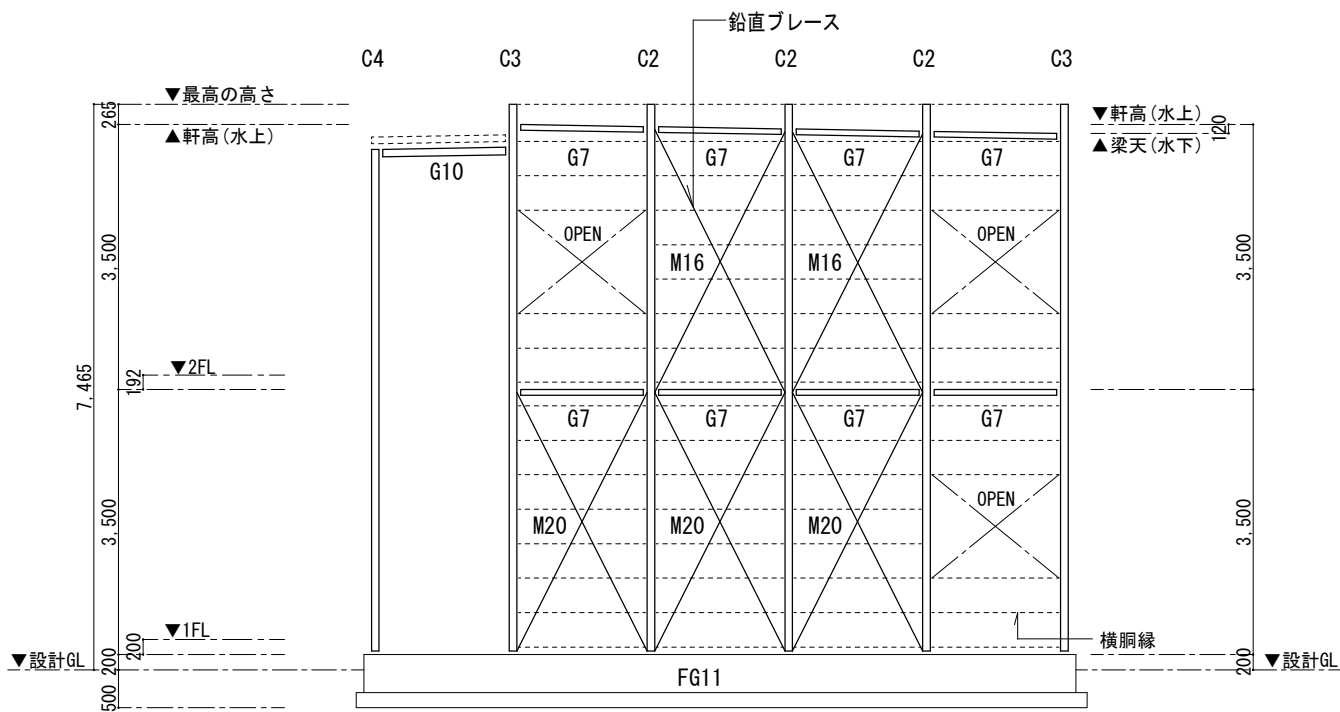
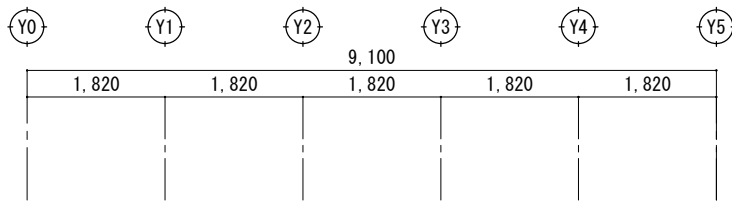
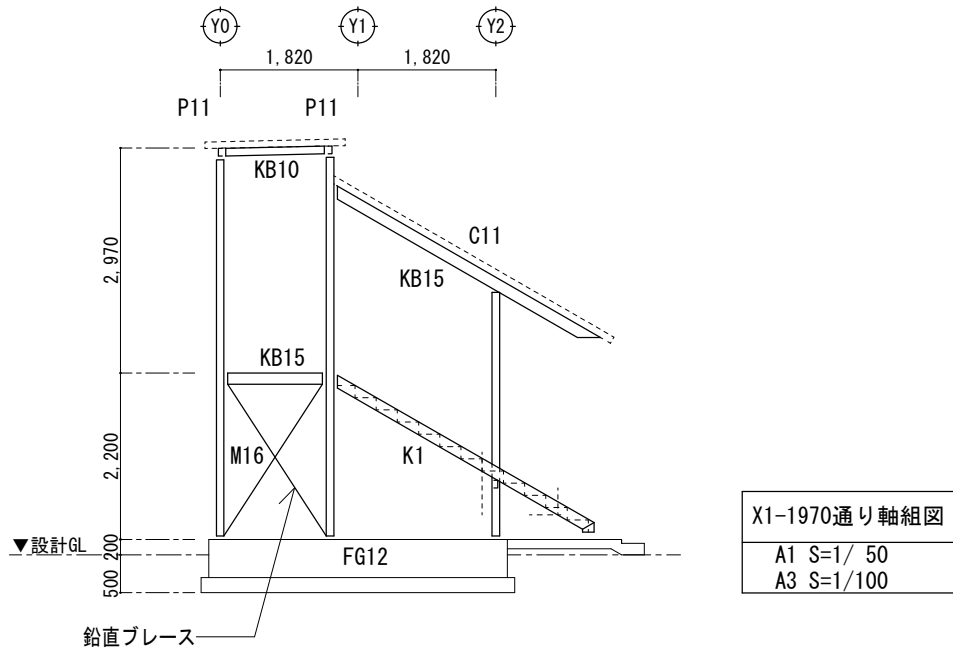
1) 横胴縁の間隔 : 450mm

横胴縁サイズ :

□-60x60x2.3 (ブレース設置あり)

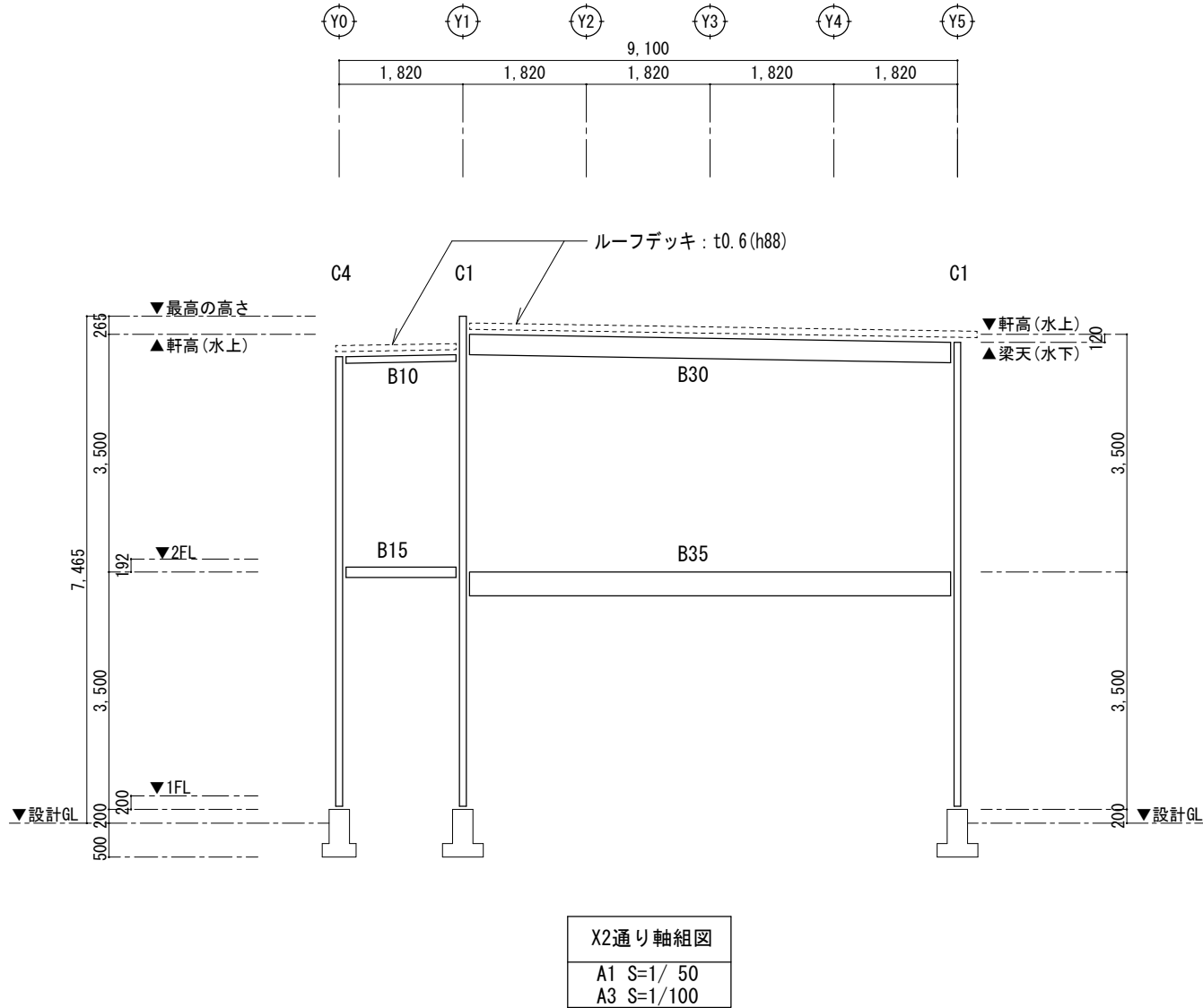
C-75x45x20x2.3 (ブレース設置なし)

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	軸組図(2)
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	1/100
適要		図面番号	S-17
検印	管理建築士	設計	製図
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号 一級建築士 第141385号 構造設計一級建築士 第9036号		名称	株式会社 宮平設計
		資格者氏名	一級建築士 徳村 泉
		登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号
		所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号



X1通り軸組図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100

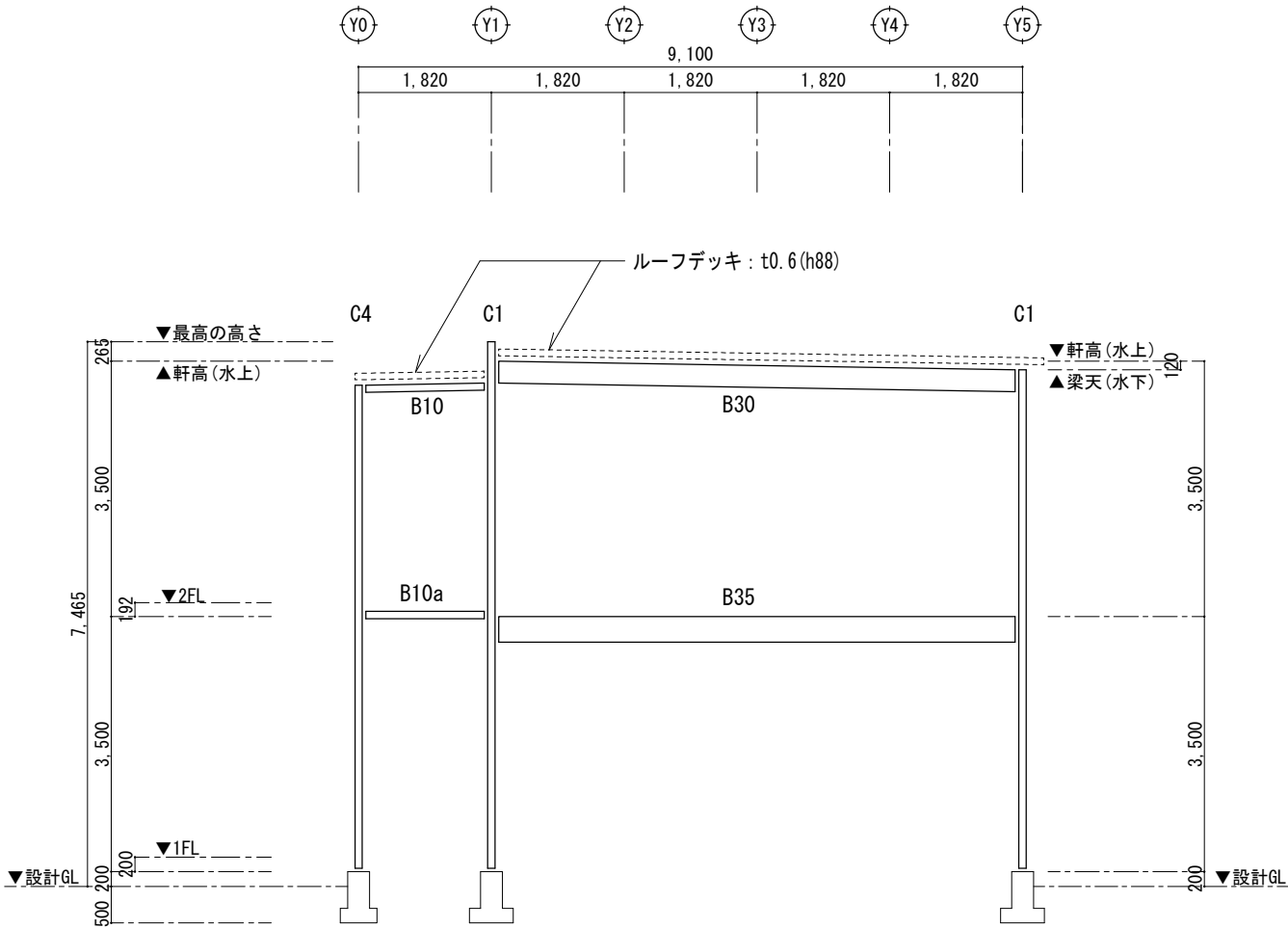
特記なき限り下記による
1) 横胴縁の間隔：450mm
横胴縁サイズ：
□-60x60x2.3 (ブレース設置あり)
C-75x45x20x2.3 (ブレース設置なし)



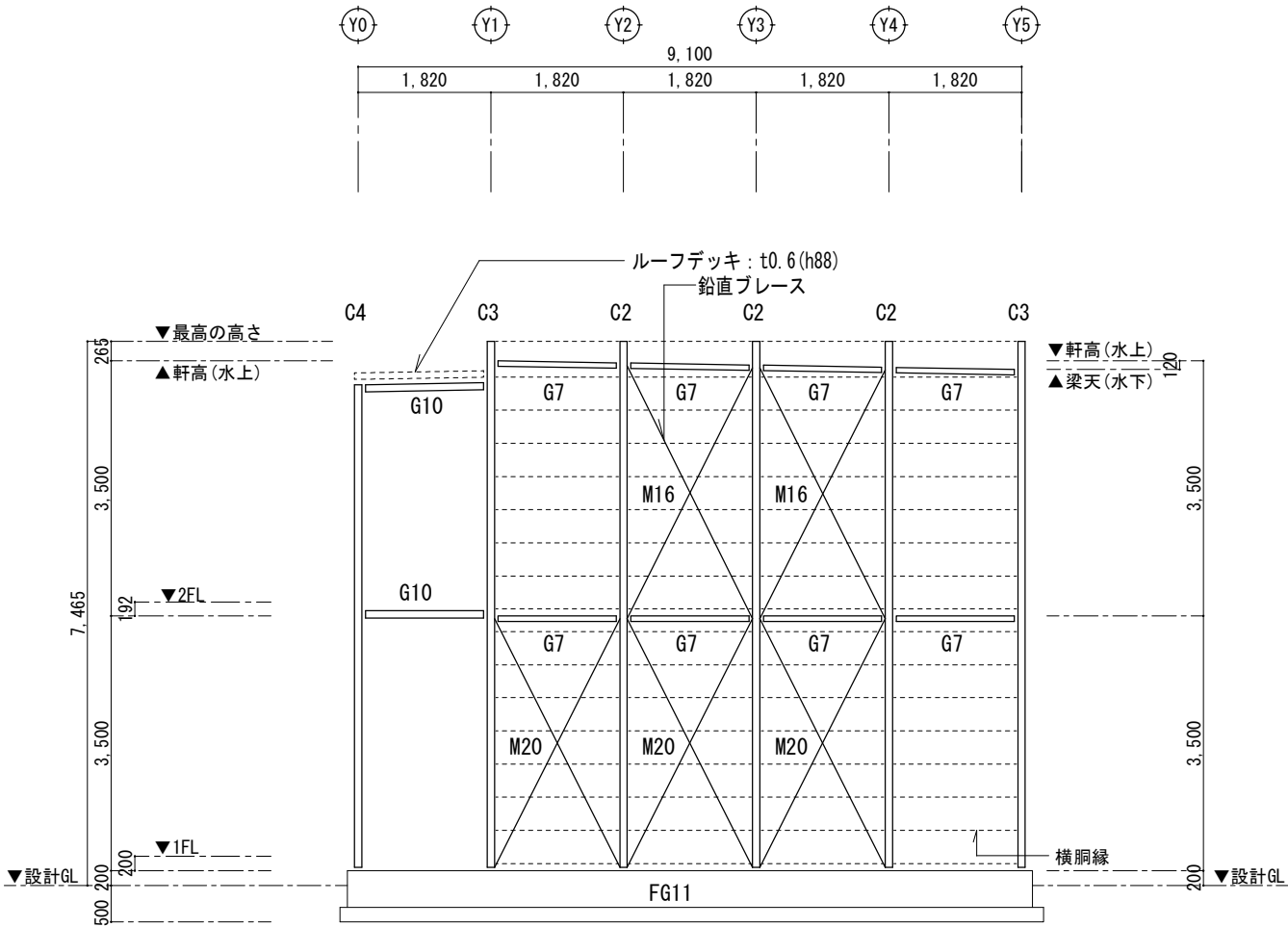
X2通り軸組図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 アン
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	軸組図(3)
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	1/100
適要		図面番号	S-18
検印	管理建築士	設計	製図
名称	株式会社 宮平設計		
資格者氏名	一級建築士 徳村 泉		
登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号		
所在地	沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号		



X3通り軸組図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100



X7通り軸組図
A1 S=1/ 50
A3 S=1/100

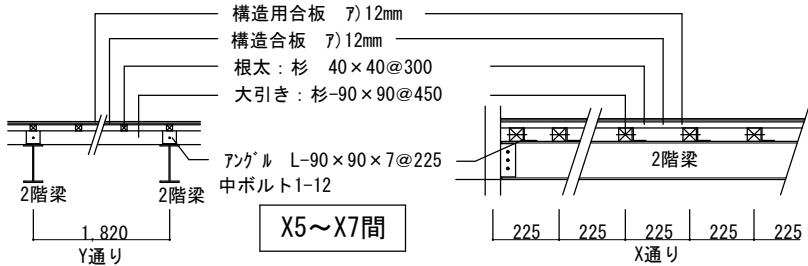
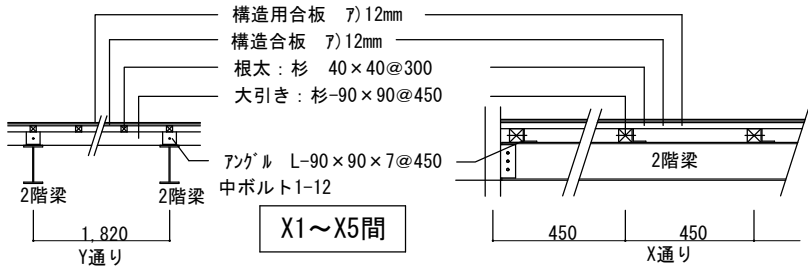
特記なき限り下記による
1) 横胴縁の間隔: 450mm
横胴縁サイズ:
□-60x60x2.3 (ブレース設置あり)
C-75x45x20x2.3 (ブレース設置なし)

有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号 一級建築士 第 141385号 構造設計一級建築士 第 9036号	工事名称		沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度		令和7年度
	工事場所		沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称		軸組図(4)
	発注機関		沖縄県中央児童相談所	縮尺		1/100
	適要			図面番号		S-19
	検印		管理建築士 設計 製図	設計者		名称 株式会社 宮平設計 資格者氏名 一級建築士 徳村 泉 登録番号 一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号 所在地 沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号

柱・柱脚リスト S=1/20		ベースプレート(BPL) : SS400 アンカーボルト(A. BOLT) : SS400 , 溶融亜鉛メッキ , L型ダブルナット締め			
符号	C1	C2	C3	P4	P11
	(柱脚部)	(柱脚部)	(柱脚部)	(柱脚部)	(柱脚部)
主材	□-100x100x4.5	□-100x100x4.5	□-100x100x4.5	□-100x100x4.5	□-100x100x6
BPL	BPL-260x120x22	BPL-120x260x22	BPL-190x190x22	BPL-260x120x22	BPL-260x120x22
A. BOLT	2-M20, L=400(定着)	2-M20, L=400(定着)	2-M20, L=400(定着)	2-M16, L=350(定着)	2-M16, L=350(定着)
備考	通し柱	通し柱	通し柱	通し柱	通し柱

共通事項 ※特記なき下記による。
・外部露出する部材およびボルトは、亜鉛溶融メッキ塗装とする。
・部材は、ボルト接合(ピン接合)とする。

鉄骨材質 ※特記なき限り下記による。
1) リップ溝形鋼(C) : SSC400
2) 角形鋼管(□) : STKR400
3) H形鋼 : SS400
4) ブレース : SS400
5) プレート : SS400



2階室内床の詳細図 S=1/20

梁接合リスト表				・梁鋼種 : SS400, SSC400 ・ボルト : 特記なき 中ボルト		
採用	符号	断面寸法	径D	ウ ェ ブ		
				ボルト		GPL
				mW×nW	P (mm)	厚 (mm)
●	G10	[-100x50x5x7.5	M16 (F8T)	2×1	—	6
●	G7	□-75x75x2.3	M12 (F10T)	1×2	—	6
●	B35 ※1	H-350×175×7×11	M16 (F10T)	4×1	60	9
●	B30 ※1	H-300×150×6.5×9	M16 (F10T)	3×1	60	9
●	B15	[-150x75x6.5x10	M12	2×1	—	6
●	B10	C-100x50x20x3.2	M12	1×2	—	4.5
●	B10a	2C-100x50x20x3.2	M12	1×2	—	6
●	B7(庇母屋)	2C-75x45x15x2.3	M12	1×1	—	3
●	N7(根太)	C-75x45x15x2.3	M12	1×1	—	3
●	KB15	[-150x75x6.5x10	M16 (F8T)	2×1	—	9
●	KB10	[-100x50x5x7.5	M16 (F8T)	1×2	—	6
●	K1(ササrah柾)	[-150x75x6.5x10	M16 (F8T)	2×1	—	9
●	P1	□-75x75x2.3	M12	2×1	—	6
●	横胴縁 ※2	□-60x60x2.3	M12	1×1	—	3
●	横胴縁 ※2	C-75x45x15x2.3	M12	1×1	—	3
●	開口受材 ※2	2C-75x45x15x2.3	M12	1×1	—	4.5
備 考						
・※1. H形鋼梁納まり詳細図 : S-22参照						
・※2. 耐風梁は、横使いとする。						
・中ボルト締めは、JIS B1251に適合するばね座金(ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾜｯｼｰ)を使用すること。						

※1. 建設大臣認定条件による。
※2. () 内数値は、母屋・胴縁等とする。

ボルト共通事項

・ボルト孔、縁端距離、ピッチ

呼び	ボルト孔 (mm)			縁端距離 e (mm)		ピッチ p (mm)	
	F10T, S10T	S8T ※1	中ボルト ※2	最少	標準	最少	標準
M12	14.0	—	12.5 (13.0)	25	40	40	60
M16	18.0	17.5	16.5 (17.0)	30		40	
M20	22.0	22.0	20.5 (21.0)	35		50	
M22	24.0	24.0	22.5 (23.0)	40		55	

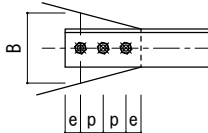
梁接合標準図(ピン接合)

A 小梁 $h \leq$ 大梁 $h \times 1/2$ の場合

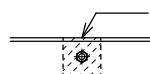
B 小梁 $h >$ 大梁 $h \times 1/2$ の場合

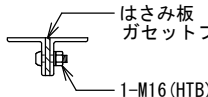
ブレースリスト									
・鋼種 : SS400									
・ボルト : HTB-F10T, S10T (階段部 : F8T)									
採用	符号	断面寸法	本数-径D	GPL (mm)	必要溶接長さ L (mm)				羽子板 (mm)
				厚t×幅B	A	B	C	D	厚t×幅B
●	M12	M12 (タンパッカル付)	1-M12	6× 60	60	42	54	40	FB-4. 5×60
●	M16	M16 (タンパッカル付)	1-M16	9× 70	80	56	72	55	FB- 6×60
●	M20	M20 (タンパッカル付)	1-M20	9× 80	97	65	81	75	FB- 9×70

ブレース接合標準図 (保有耐力接合)

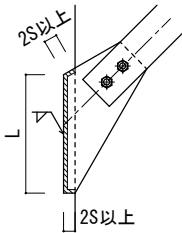
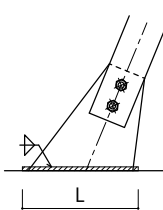
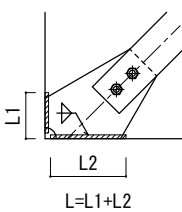
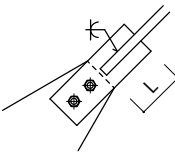


・山形鋼ダブル・背中合せ
はさみ板をブレース中央部にボルト止めとする。





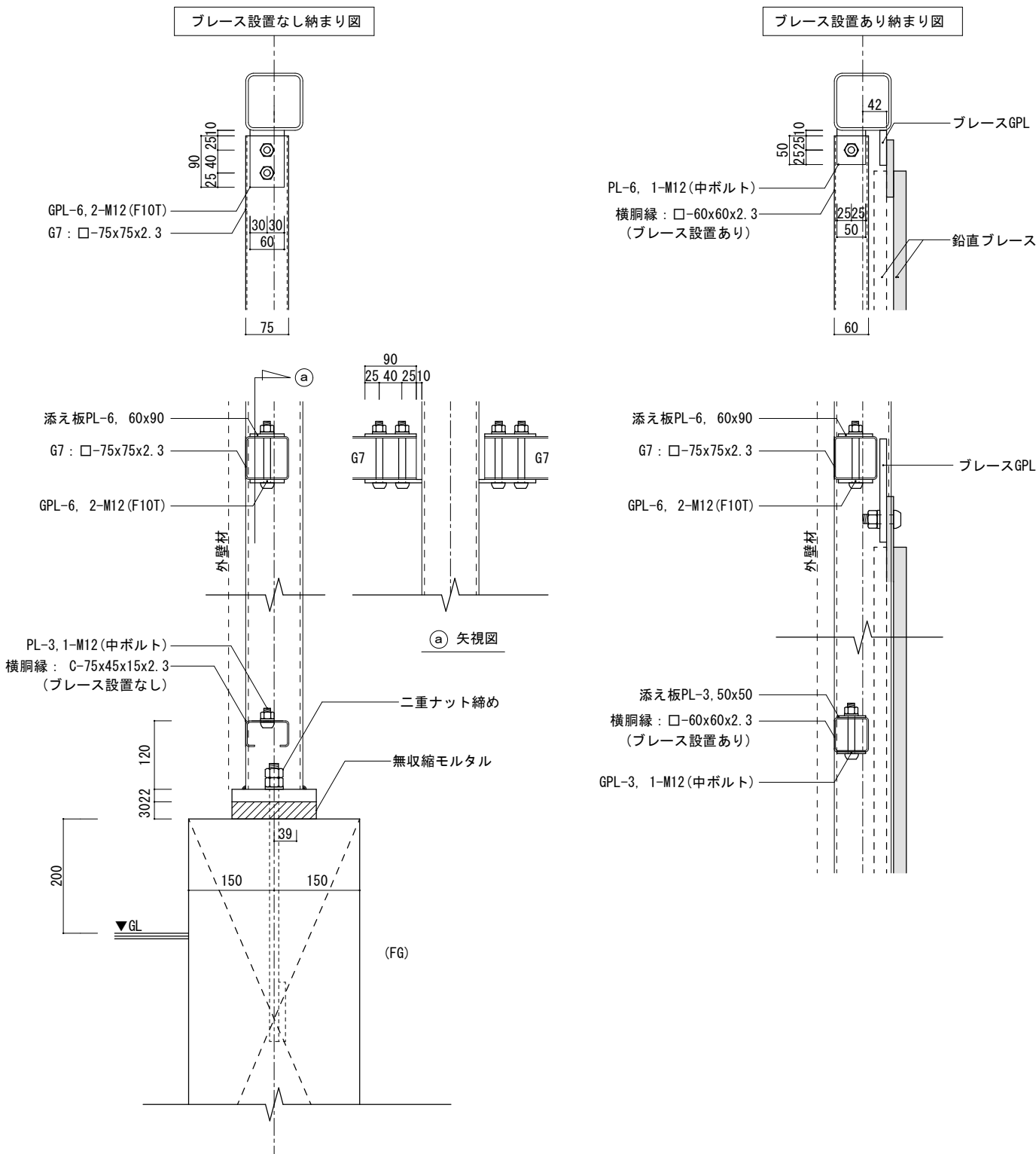
・ガセットプレート必要溶接長さ

A	B	C	D
			

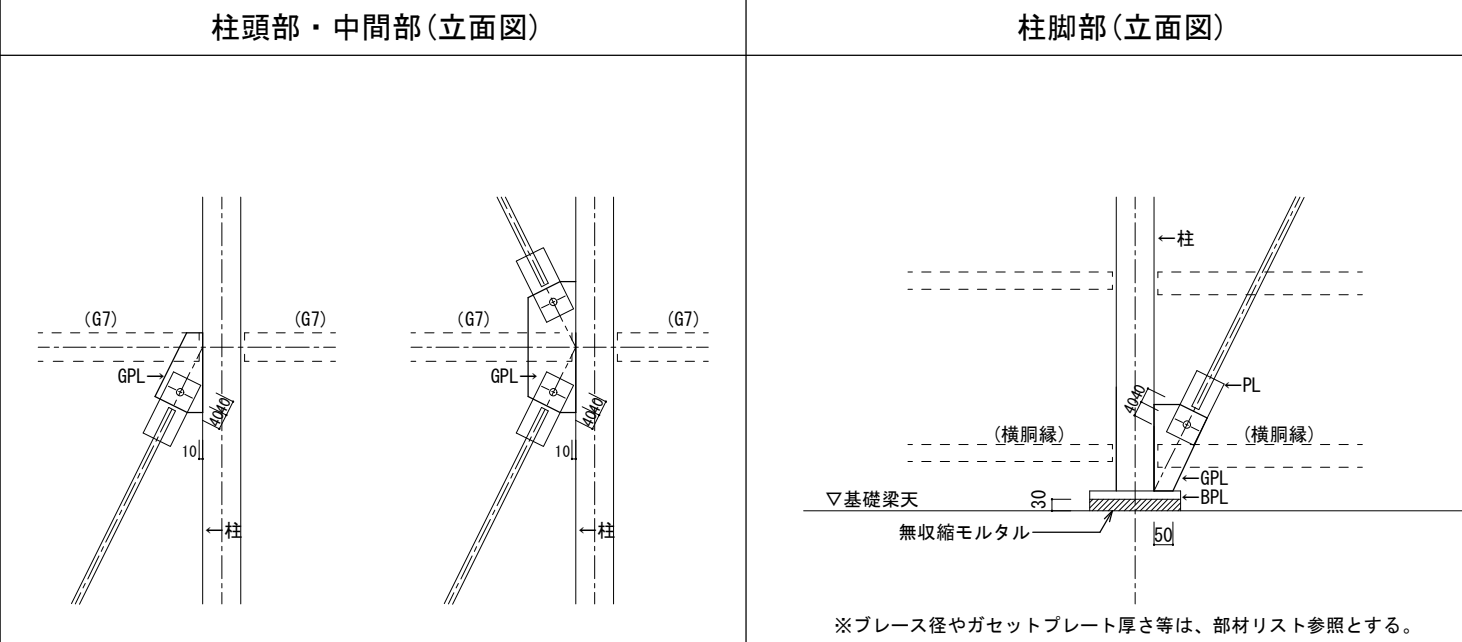
工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度	
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	鉄骨部材リスト	
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	1/20	
適要		図面番号	S-20	
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号 一級建築士 第141385号 構造設計一級建築士 第9036号	管理建築士	設計	製図	設計者氏名 株式会社 宮平設計 一級建築士 徳村 泉
	検印			登録番号 一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号
				所在地 沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号

胴縁・柱脚納まり詳細図 S=1/10

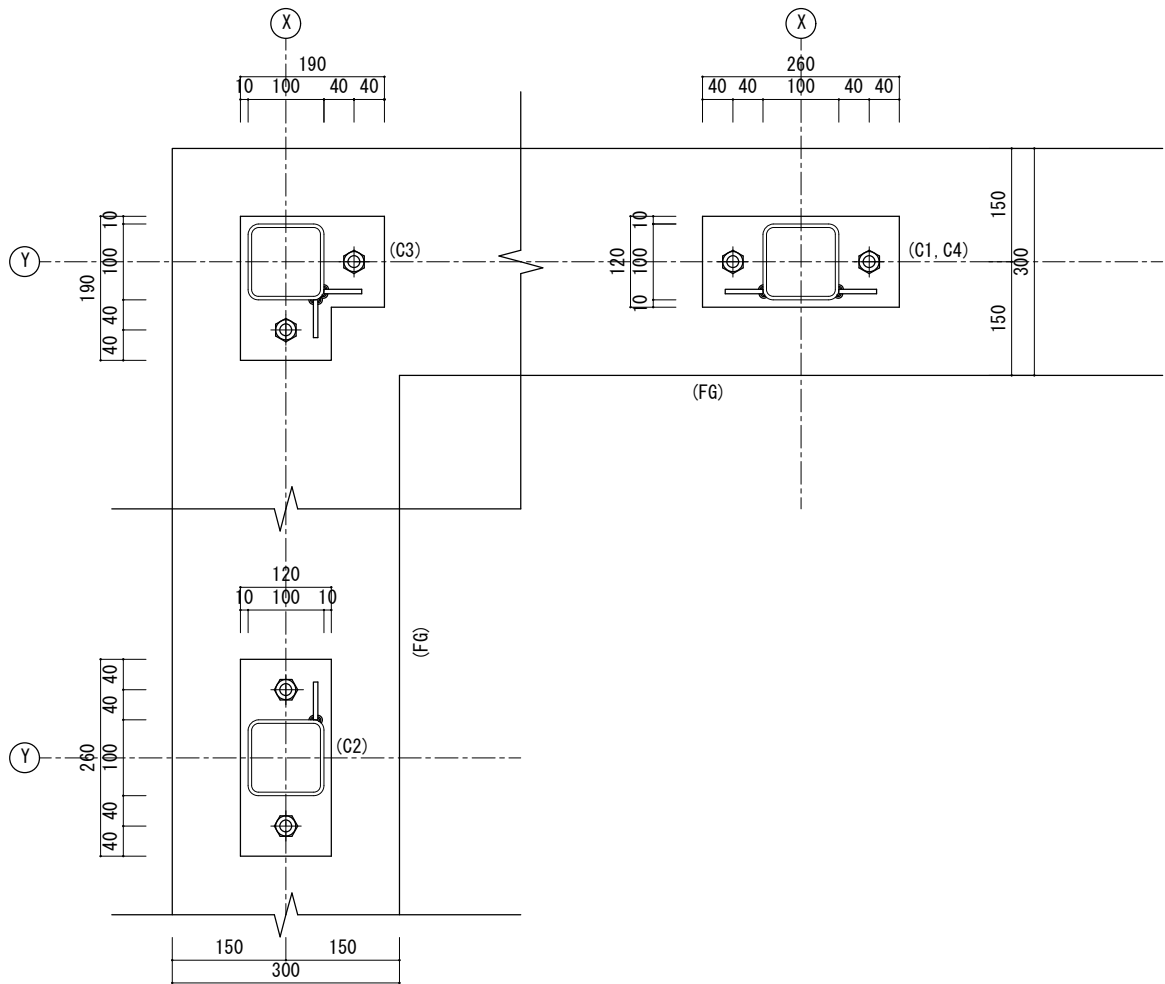
※柱部材は、「S-00. 鉄骨部材リスト」参照とする。



壁ブレース接合納まり図 S=1/20

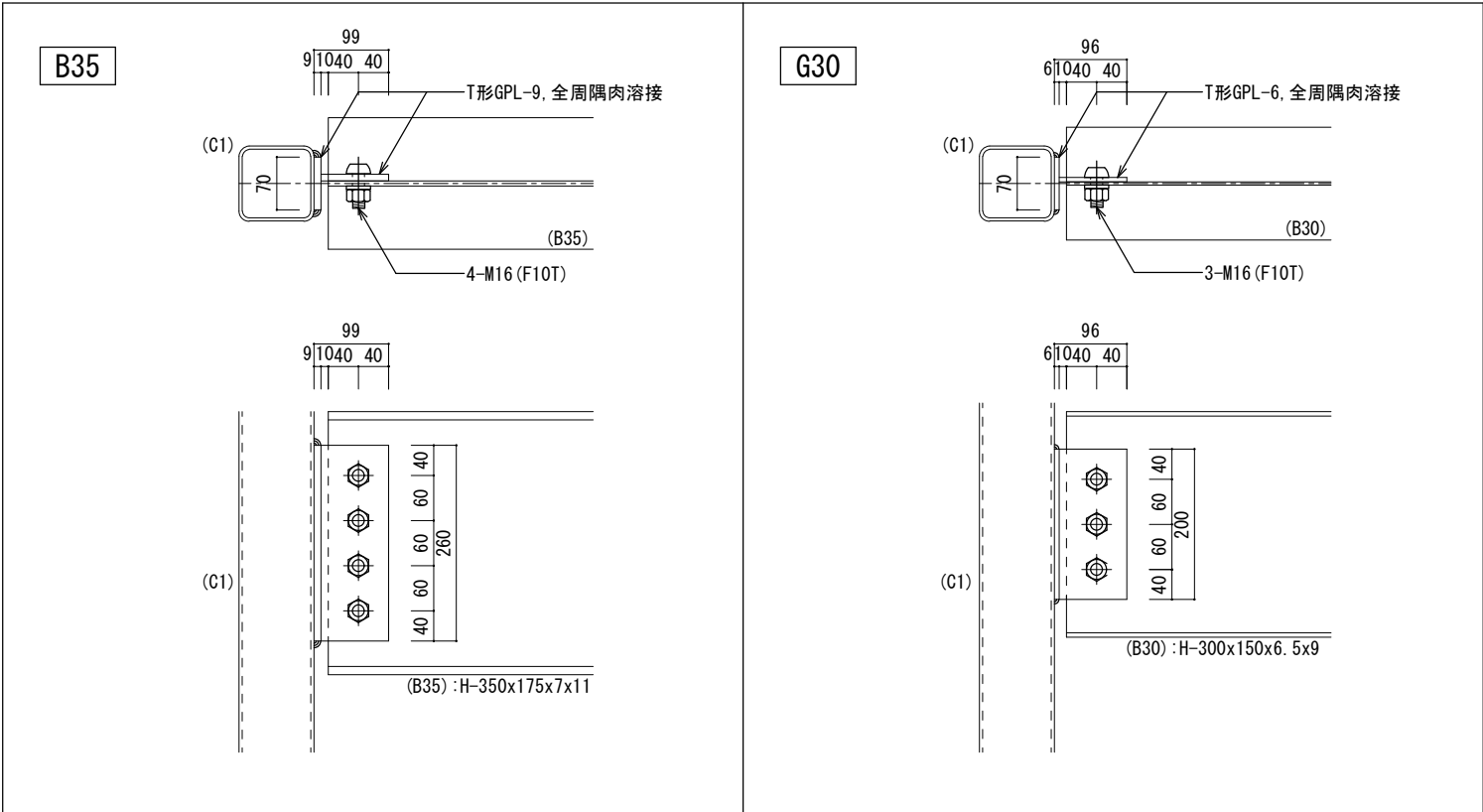


各柱柱脚配置図 S=1/10

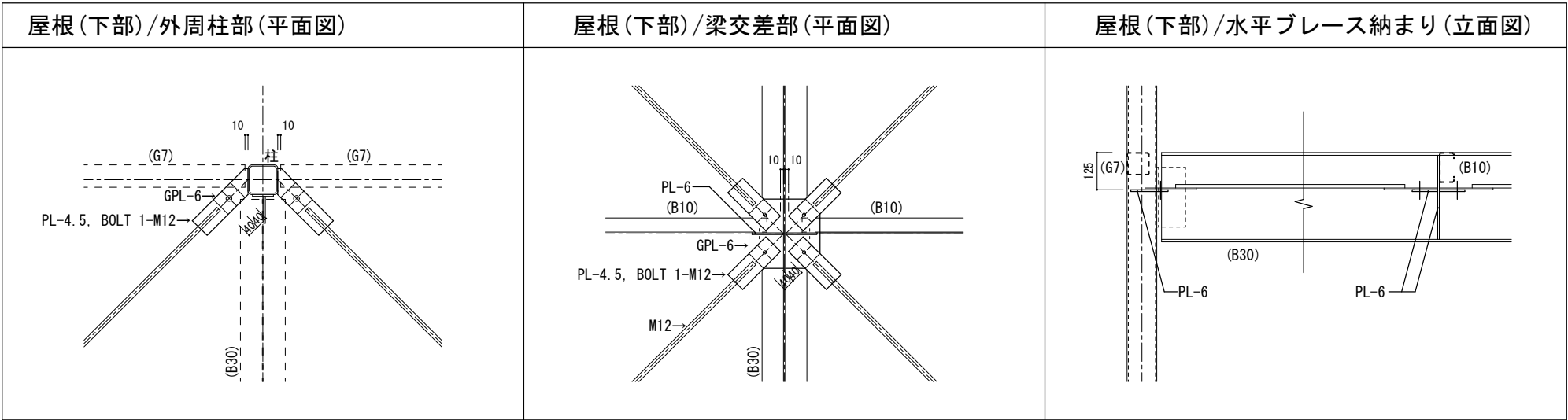


工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造（プレハブ）事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	納まり詳細図（1）
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	1/20 1/10
適要		図面番号	S-21
検印	管理建築士	設計	製図
有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一 一級建築士事務所 知事登録 第178-2236号 一級建築士 第141385号 構造設計一級建築士 第9036号		名称 資格者氏名 登録番号 所在地	株式会社 宮平設計 一級建築士 徳村 泉 一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号 沖縄県那覇市 首里山川町三丁目61番9号

H型鋼梁納まり詳細図 S=1/10



水平ブレース接合納まり図 S=1/20



有限会社 長嶺総合設計 長嶺 安一
一級建築士事務所 知事登録 第 178-2236号
一級建築士 第 141385号
構造設計一級建築士 第 9036号

工事名称	沖縄県中央相談所軽量鉄骨造(プレハブ)事務所増築工事	工事年度	令和7年度
工事場所	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目404番2	図面名称	納まり詳細図(2)
発注機関	沖縄県中央児童相談所	縮尺	1/20 1/10
適要		図面番号	S-22
設計者	管理建築士	設計	製図
	資格者氏名	一級建築士	株式会社 宮平設計
	登録番号	一級建築士事務所知事登録 第144-33号 一級建築士 大臣登録 第350160号	徳村 泉
	所在地	沖縄県那覇市	首里山川町三丁目61番9号